

ORACLE®

平成14年5月期 中間決算説明会

2002年1月16日

日本オラクル株式会社
代表取締役社長
最高経営責任者

新宅 正明

- 1 . 中間決算概要
- 2 . FACTS
- 3 . 事業戦略の方向性
- 4 . 通期業績見通し

1. 中間決算概要

中間決算ハイライト

(単位: 百万円)

	当初予想	当期		前年比
売上高	(47,238)	43,843		10.6%
経常利益	(16,486)	16,560		20.7%
経常利益率	(34.9%)	37.8%		3.2p
ソフトウェアロダ外	(30,552)	26,531		0.7%
サービスビジネス	(16,686)	17,311		30.0%
ソリューションビジネス	(通期のみ)	7,169		19.6%

ORACLE

(注)ソリューションビジネスの中間期の当初予想は出しておりません。

中間決算ハイライト

(百万円)

	前中間期	当中間期 当初予想	当中間期	達成度	前年比
売上高	39,655	47,238	43,843	92.8%	+ 10.6%
営業利益	13,637	16,440	16,494	100.3%	+ 21.0%
営業利益率	34.4%	34.8%	37.6%		
経常利益	13,725	16,486	16,560	100.4%	+ 20.7%
経常利益率	34.6%	34.9%	37.8%		
純利益	7,791	9,471	9,497	100.3%	+ 21.9%
当期利益率	19.6%	20.0%	21.7%		

中間決算ハイライト(売上内訳)

(百万円)

	前中間期	当中間期 当初予想	当中間期	前年比
サーバー・テクノロジー等	24,499	28,152	25,013	+ 2.1%
ビジネス・アプリケーション	1,841	2,400	1,517	17.6%
ソフトウェアプロダクト外計	26,342	30,552	26,531	+ 0.7%
サポートサービス	7,864	10,536	11,076	+ 40.8%
エデュケーションサービス	1,813	2,000	2,076	+ 14.5%
コンサルティングサービス	3,635	4,150	4,158	+ 14.4%
サービス計	13,313	16,686	17,311	+ 30.0%
売上高合計	39,655	47,238	43,843	+ 10.6%

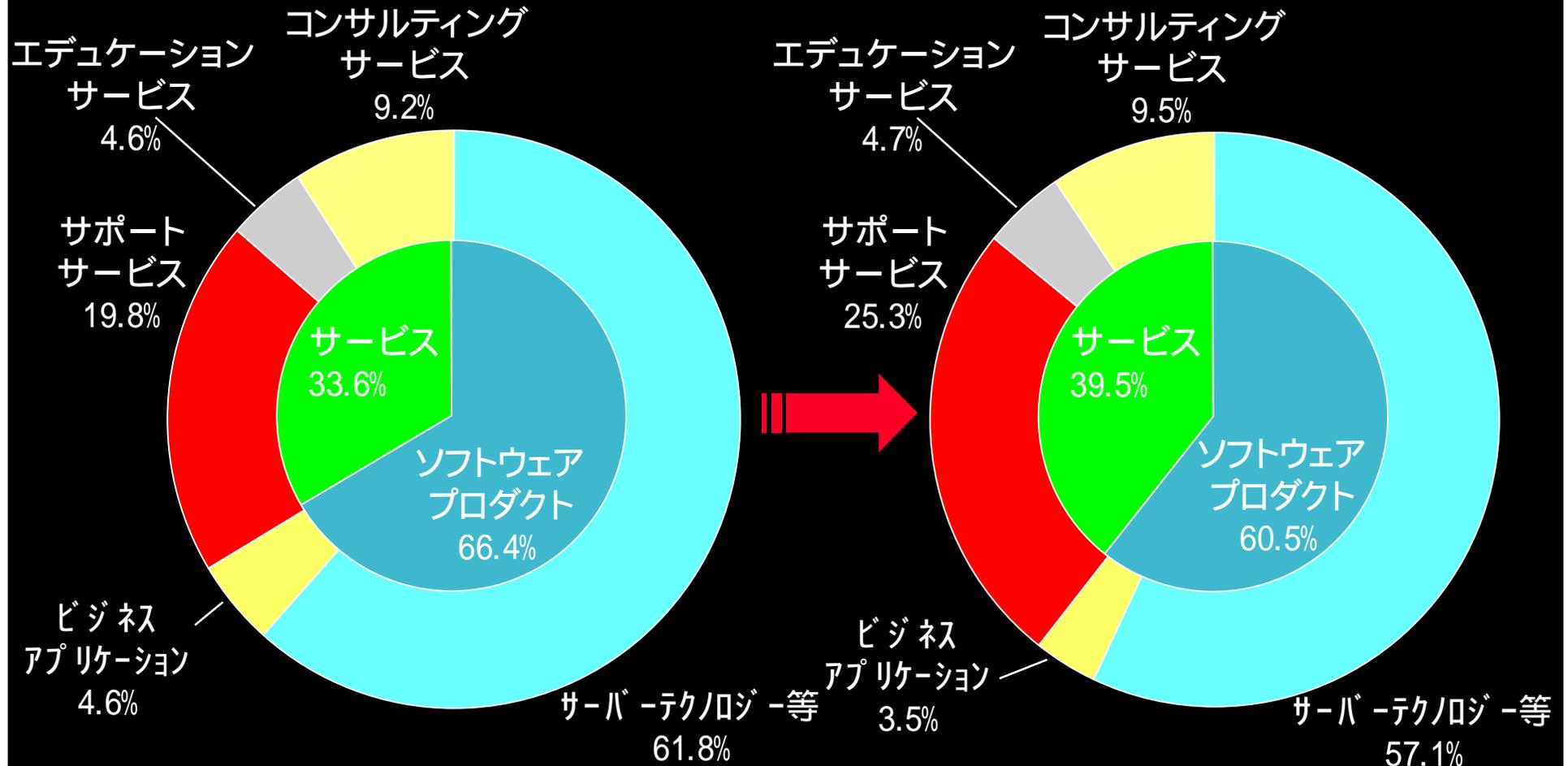
(注) サーバー・テクノロジー等はソフトウェアツールを含む

ORACLE

品目別売上構成比

前中間期売上高: 39,655百万円

当中間期売上高: 43,843百万円



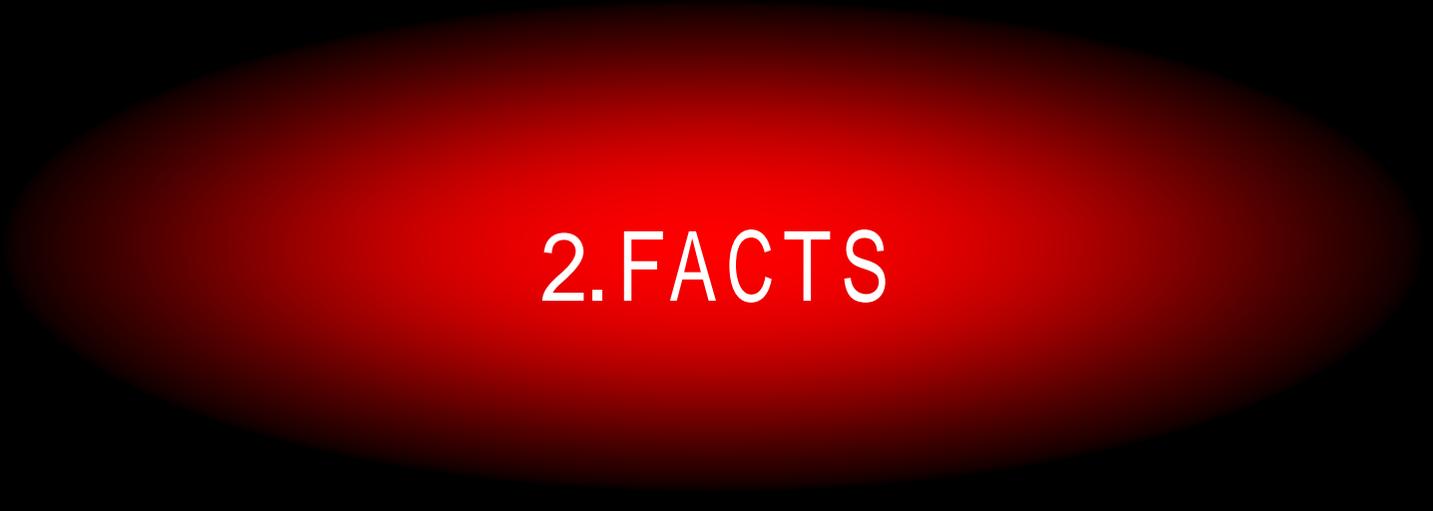
ORACLE

(注) サーバ・テクノロジー等はソフトウェアツールを含む

中間決算ハイライト（営業利益内訳）

(百万円)

	前中間期		当中間期		前年比
	営業利益	利益率	営業利益	利益率	
ソフトウェア ^o 外	11,833	44.9%	10,464	39.4%	▲ 11.6%
ホ ^o -トサービス	5,040	64.1%	7,800	70.4%	+54.8%
エ ^o ュケーショ ^o サービス	645	35.6%	820	39.5%	+27.1%
コ ^o ンサルティング サービス	676	18.6%	1,183	28.5%	+75.0%
サービス小計	6,361	47.8%	9,803	56.6%	+54.1%
事業部利益	18,194	45.9%	20,267	46.2%	+11.4%
マーケティング	▲2,502	-	▲1,837	-	▲ 26.6%
管理部門	▲2,055	-	▲1,936	-	▲ 5.8%
営業利益	13,637	34.4%	16,494	37.6%	+21.0%

A large, horizontally-oriented oval shape with a red-to-black gradient, centered on a black background. The text "2.FACTS" is written in white, bold, uppercase letters in the center of the oval.

2.FACTS

サーバー・テクノロジー

- 産業全般にわたるIT投資抑制 140%
- UNIXサーバー売上成長率
(ミッド、及びハイエンド)

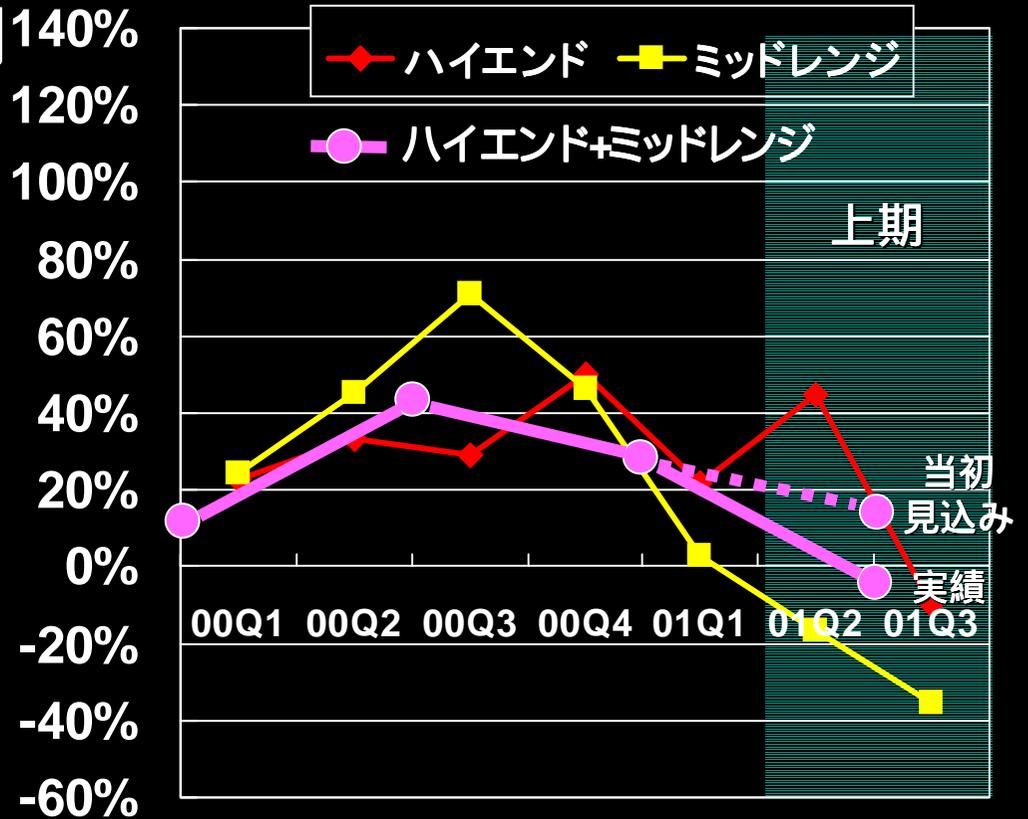
当初上期予想
+15%



上期(CY01 Q2&3)実績
-4.2%



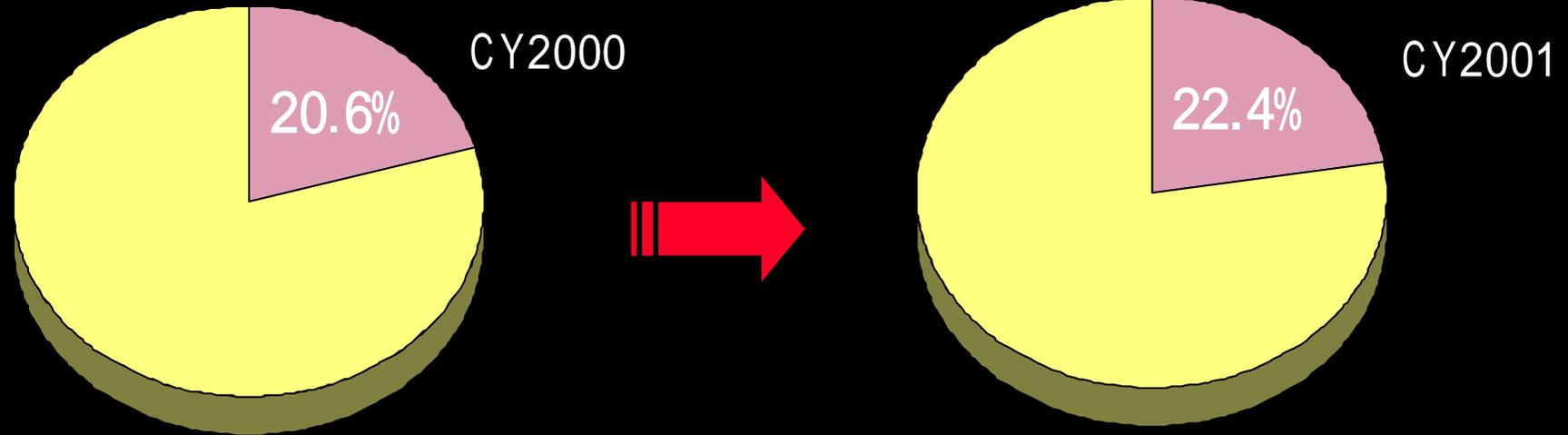
Unix Serverの売上成長率



ORACLE

ビジネス・アプリケーション概況

国内ERP市場でのシェア



(出典: 矢野経済研究所 2001年10月)

当中間期の主な購入契約先

合計43社(既存ユーザ含む)

累計300社(2001年5月) **328社**(2001年11月)

パートナー企業数

88社(2001年5月) **113社**(2001年11月)

ビジネス・アプリケーション

～ 全体的な動向 ～

市場環境

- 半導体・ハイテク業界における想定以上の急激な景気後退
- 全般的なIT投資抑制・先送り
特に新規プロジェクトへ顕著な影響
プロジェクト規模の縮小

新エリアへのニーズの拡大

- CRM、SCM、OPMへの展開に向け、実プロジェクトを通じた人材の育成を推進
- 但し上期としては市場の高いニーズに十分応えるには至っていない

3. 事業戦略の方向性

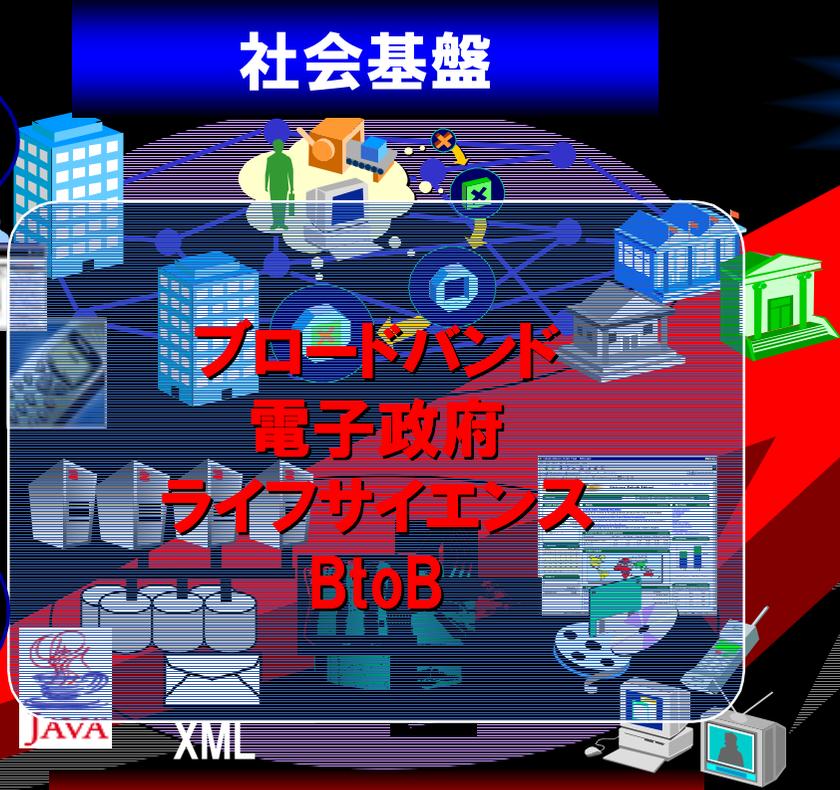
サーバー・テクノロジー

市場環境の変化 より高い処理性能要求へ

急速に拡大する
ユーザー数
爆発的に増加する
処理量

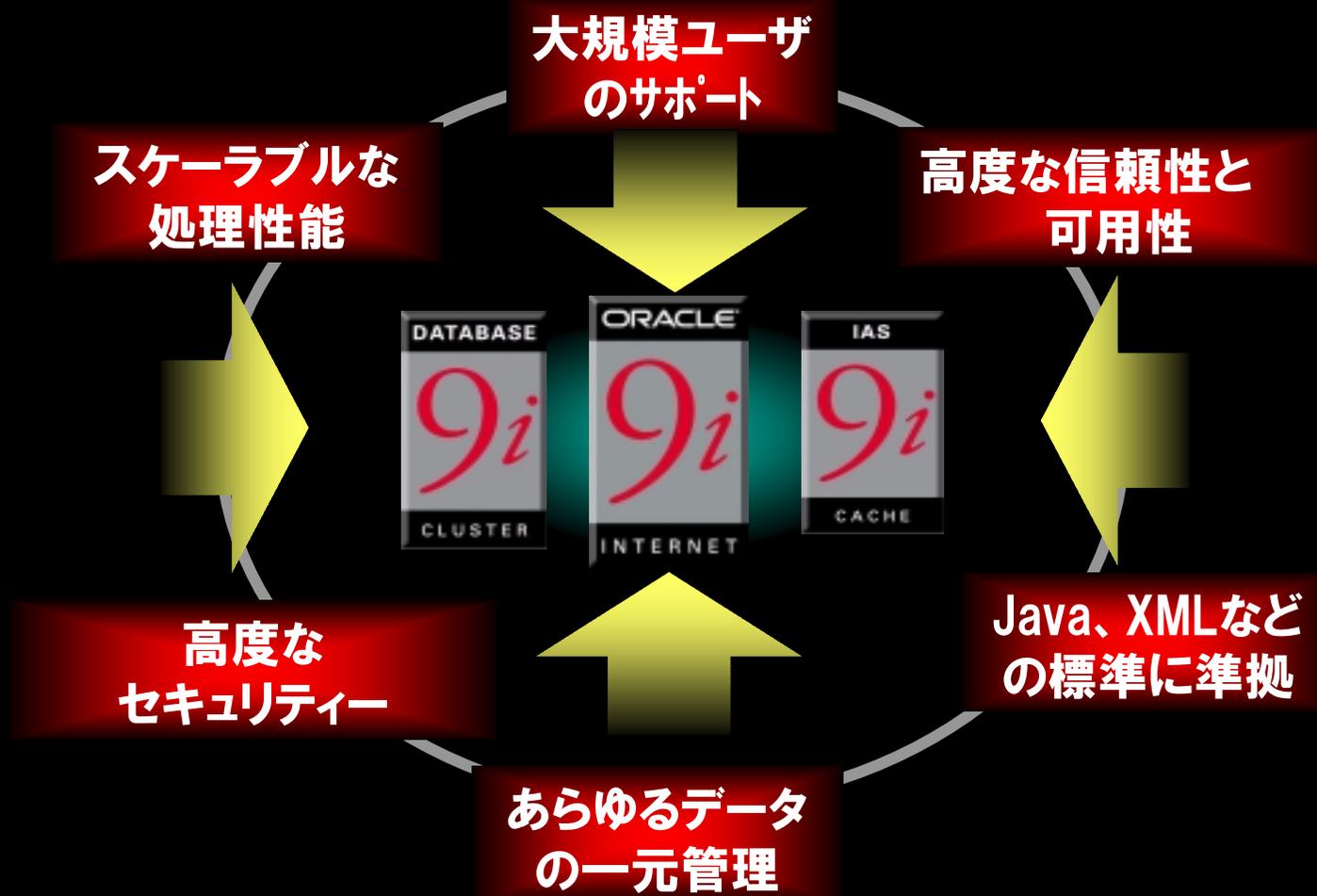
2005年
4000万世帯
(総務省懇談会試算)

ブロードバンドを
活かした
コラボレーション



企業内Real E-Business

ブロードバンド時代に 必要とされる機能・性能を完全にサポート



Oracle9i

- データベースとアプリケーションサーバーの統合



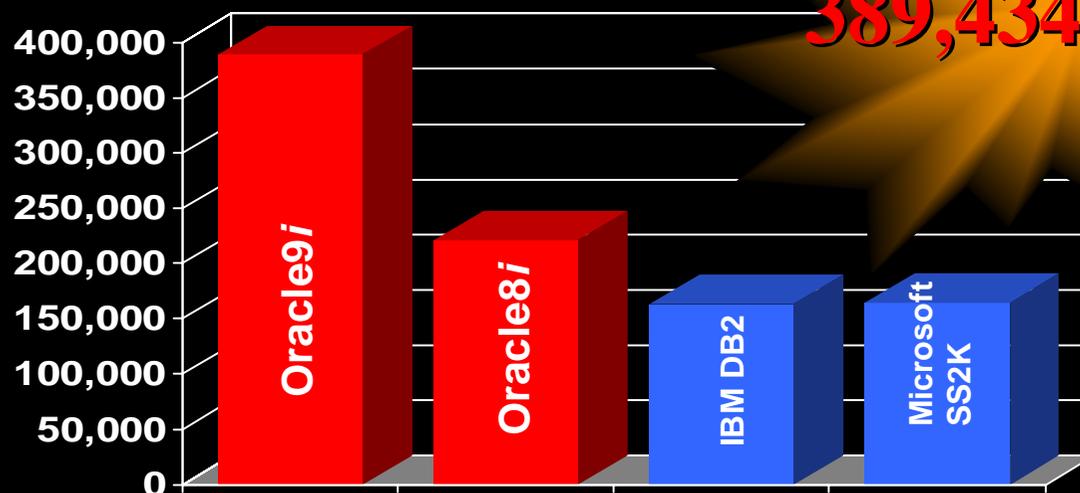
時代が求める新基準のプラットフォーム

ハードウェア性能を100%引き出すOracle9i

➤ 業界最高の性能を実現したOracle9i

- Oracle8i に比べ 1.76倍
- IBM DB2に比べ 2.38倍
- Microsoft SQLに比べ 2.36倍

※ SMPマシンにおけるTPC-Cの値



389,434 tpmC

ORACLE

サーバー・テクノロジー 今後の展開

ハイエンドマーケット

- メインフレームAlternative

New Market

- 電子政府
- ブロードバンド
- ライフサイエンス

製品ラインアップ

- Oracle9i DB RAC
- Oracle9i AS Cache
- Oracle9i JDeveloper

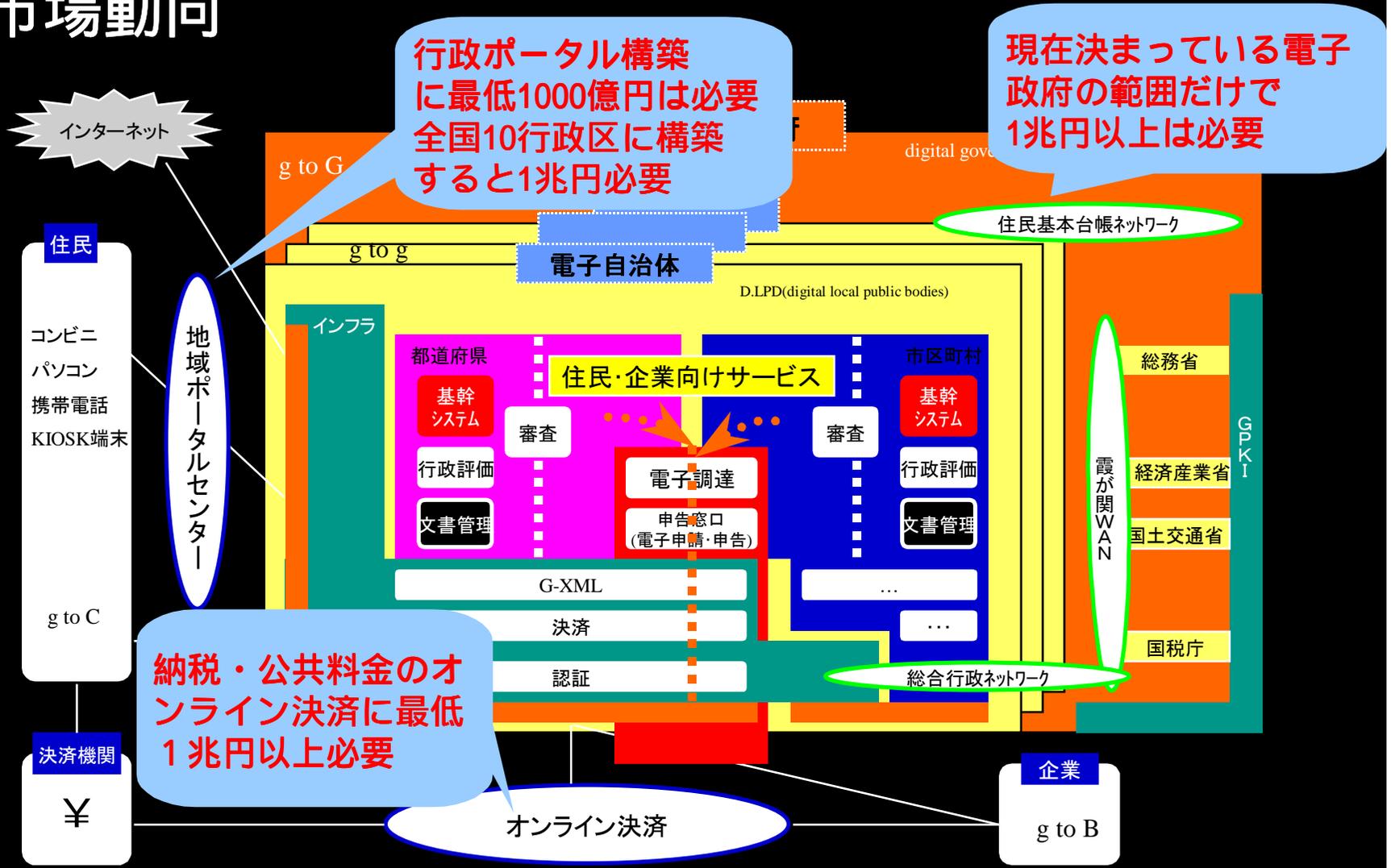


ローエンドマーケット

- 2次店、3次店パートナーのサポート強化
- Linux版製品の拡販

New Market – 電子政府

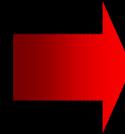
市場動向



New Market – 電子政府

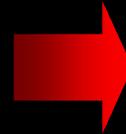
取り組みと、上期実績

電子政府プラットフォーム



電子政府大規模
インフラプロジェクト

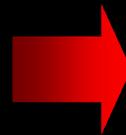
電子政府ソリューション



行政文書ファイル
管理システム

行政評価システム

日本版公共EBS

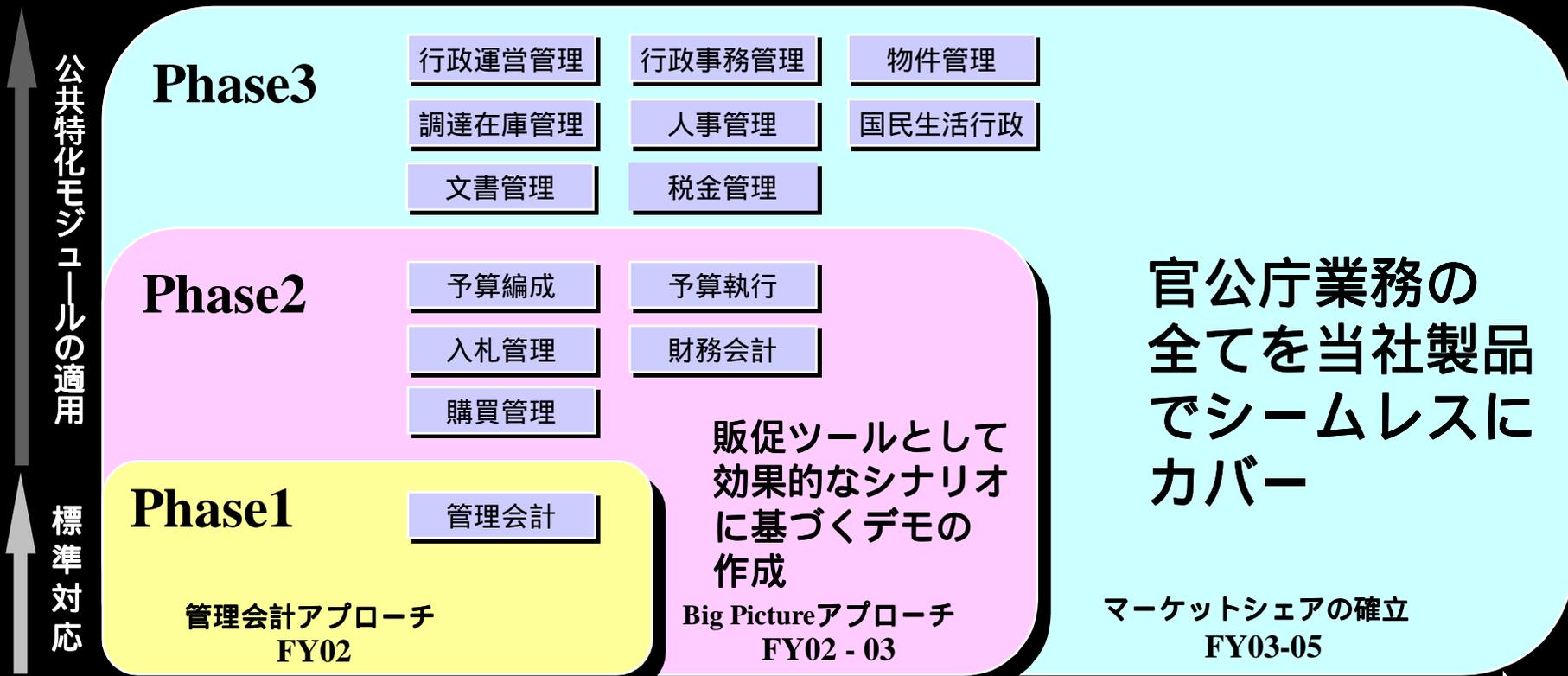


Oracle Public Sector
Applications

New Market – 電子政府

今後の展開

機能の充足度



公共特化モジュールの適用
標準対応

Oracle9i

ORACLE

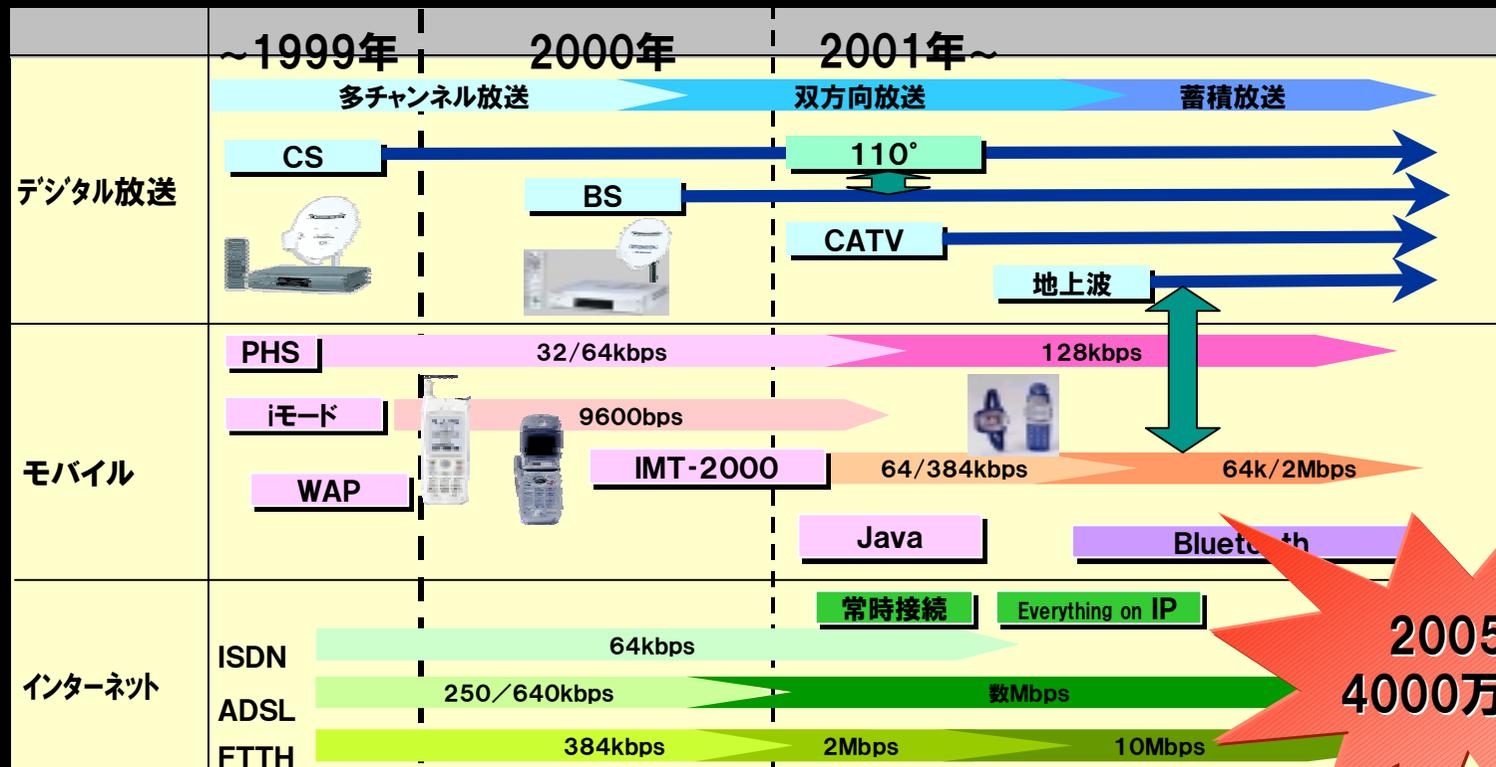
New Market - ブロードバンド

市場動向

2001~2年
実証実験の実施
対象ユーザー1万人

2003年
本格サービスの拡大
対象ユーザー100万人

2004~5年
本格サービスの拡大
対象ユーザー1000万人



2005年
4000万世帯

ORACLE

試算：総務省懇談会

New Market - ブロードバンド

取り組みと、上期実績

ブロードバンドネットワーク社会に向けての課題

ネットワーク品質 不正利用

利用トラッキング コンテンツ不足

制作から配信までのトータルなソリューションの提供

CDN Japan

11月13日稼動開始

cIDf

RA (Registration Authority)の実証実験
Oracle cIDf Libraryの無償配布開始(9月7日)

BiAMSコンテンツ制作・管理システム

松下電器との共同開発 2002年1月より販売開始

ORACLE

(敬称略)

New Market - ブロードバンド

今後の展開

cIDf : RA(認証機関)の立ち上げ

CDN Japan実績の横展開

放送メディア分野へのソリューション提案

教育分野への展開

MAN(Metropolitan Area Network)への展開

New Market – ライフサイエンス

ゲノム研究が直面する課題

- タイピングの高速化などによるゲノムDBの爆発
- データの多様性によるファイル形式の混在
- 世界中に分散されたデータ
- データのセキュリティ確保
- Bio Informaticianの不足

市場動向

- 1999年のバイオ市場は1.2兆円、そのうちソフト関連は0.6%
- 2010年にバイオ関連の市場規模は25兆円(経済産業省)
- ほとんどのデータがファイルで管理されておりRDB化開始

New Market – ライフサイエンス

取り組みと、上期実績

バイオインフォマティクス事業開発部の設置

USの豊富な事例を日本マーケットにも本格的展開
国内のニーズも本社製品開発に反映

京都大学バイオインフォマティクスセンター

ゲノムネットの化合物DBとして採用

臨床開発支援アプリケーション「Oracle Clinical」を
CTCと共同開発・販売

Topシェアの臨床試験管理システムを日本語対応
世界各国の臨床データを容易に統合し試験の短縮化
既に国内製薬メーカー2社で実績

ORACLE

(敬称略)

New Market – ライフサイエンス

今後の展開

- 製品アプローチ
 - Oracle9iでのデータ統合と大規模DB機能の提供
 - 今後のDB製品にバイオインフォマティクス機能を搭載
- ソリューション展開
 - ゲノム創薬支援システム提供
 - LIMSシステム提供
- ISV・エンジニアへの支援
 - R&D支援Package Vendorへの支援
 - Bio Informatician教育

ハイエンド マーケット

ハイエンドUnixサーバーのリリース

Sun Fire 15K, HP SuperDome
IBM eServer P690

Oracle9i新機能(RAC、データガード)

汎用機並の高信頼性

富士通とのアライアンス

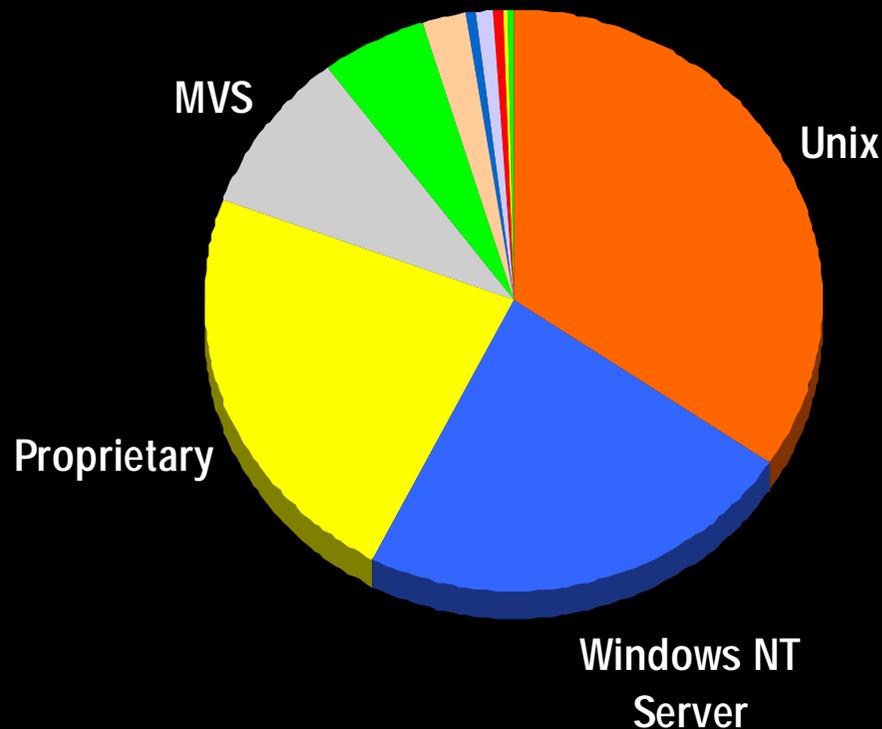
高信頼システム構築技術の普及を目的
とした提携強化(12月5日)

ORACLE

(敬称略)

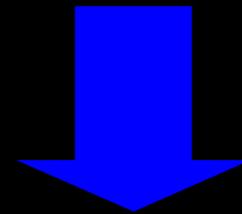
ハイエンドマーケット

国内プラットフォーム別データベース市場 2000年



Unix 68%

IA 48%



データベース市場
34%

ORACLE

Gartner Jun 21, 2001

ローエンドマーケット

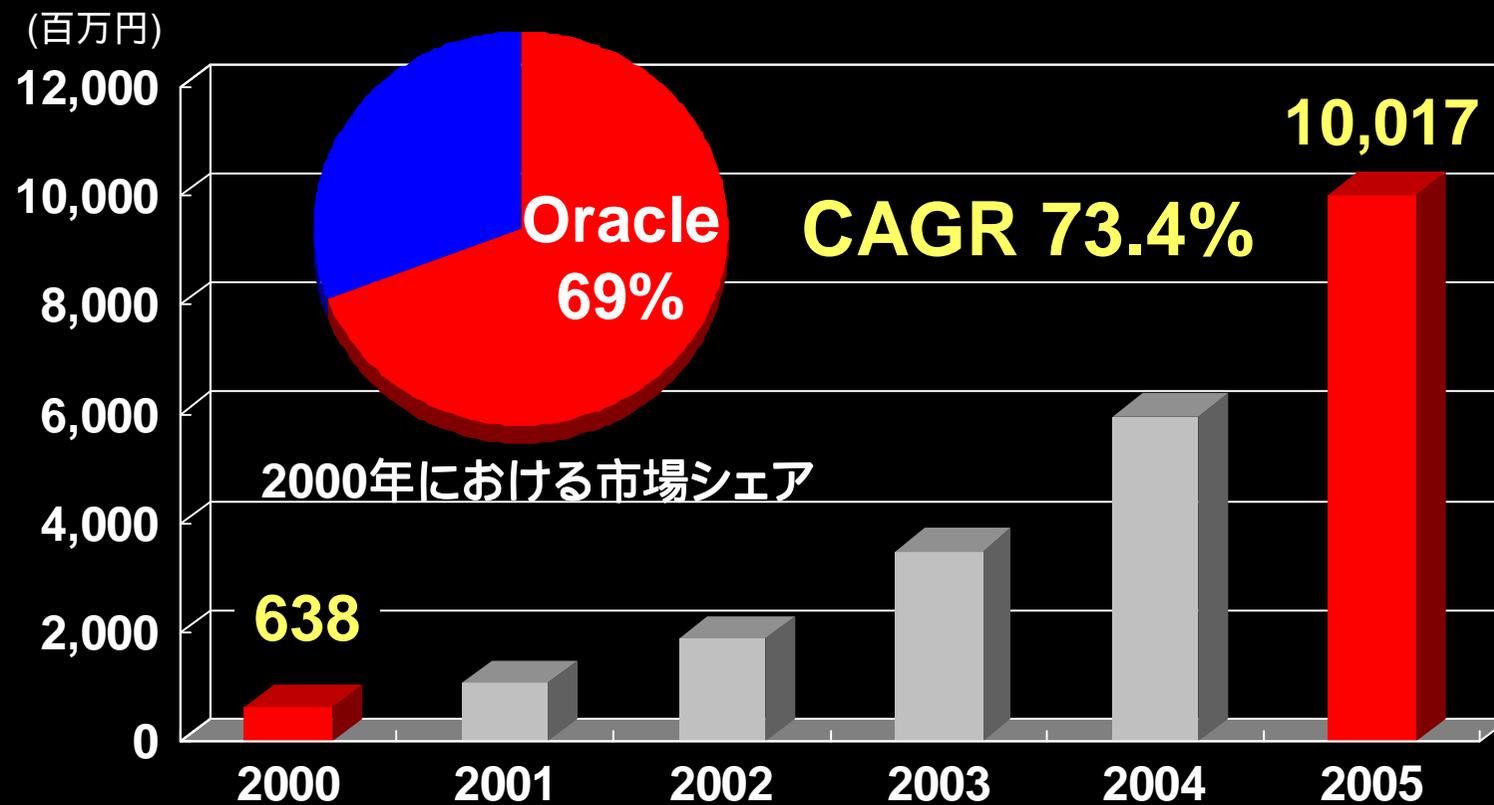
中小・地方のSier・ISVへの直接サポート

- 専任営業/サポート部門の設置
- ホットラインの設置

IA市場向けプログラムの実施

- IA向けライセンス価格の設定
- ISV向けライセンスの導入
- IA市場に対するLinux版製品の拡販

国内Linux RDBMS市場予測



(出典: IDC Japan July 2001)

ORACLE

製品ラインナップ

JDeveloper

Oracle9iAS

Oracle9i DB

ORACLE®

9i

INTERNET

高可用性 & 運用性

スケーラビリティ & パフォーマンス

インターネット・コンテンツ管理

セキュリティ

ポータル & ワイヤレス

ビジネス・インテリジェンス

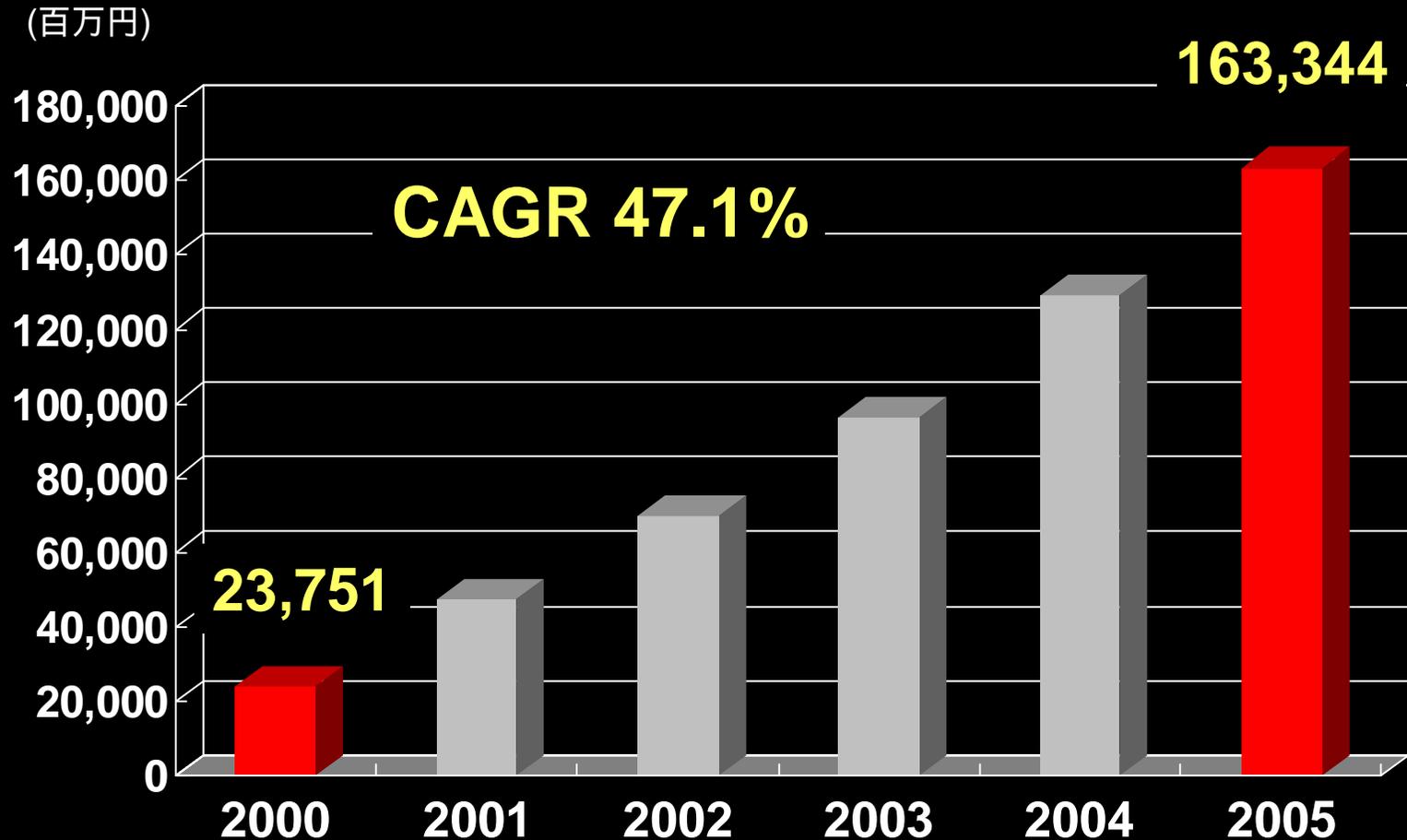
システム統合 & B2B

求められる機能と性能を満たした最強のプラットフォーム

ORACLE®

製品ラインナップ

国内アプリケーションサーバー市場予測

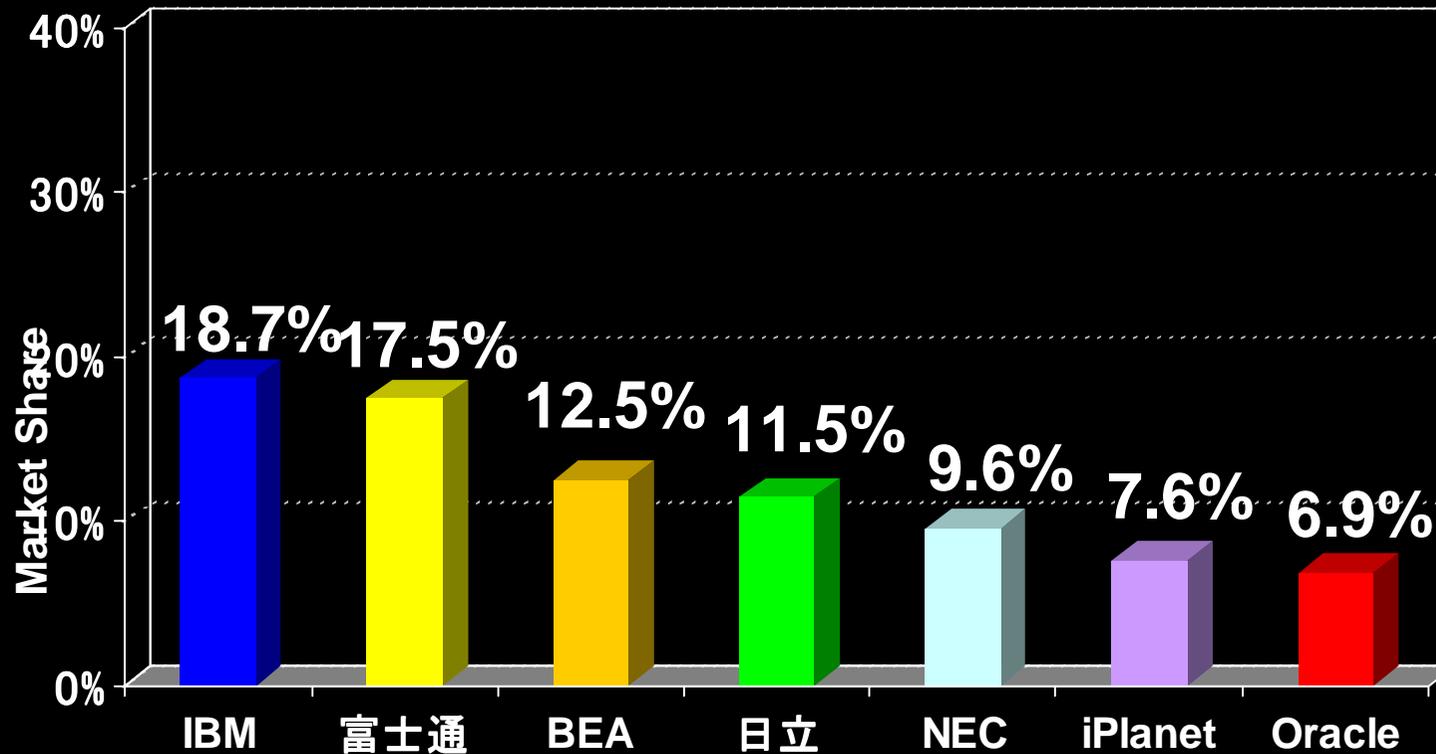


ORACLE

出典: IDC Japan, Oct 2001

製品ラインナップ

2000年国内 アプリケーションサーバー売上シェア



出典: IDC Japan, Oct 2001

ORACLE

(敬称略)

Oracle9iプライスの導入

- 市場の変化

- ブロードバンドによる高度情報化社会の到来
 - 電子政府、BtoB、ライフサイエンス
- テクノロジーの変化(マルチCPUマシンの需要拡大)
 - E-ビジネス普及による大規模サーバー
 - Sun Fire 15K : 106 cpu , IBM pSeries690 : 32cpu
 - hp Superdome : 64 cpu , Fujitsu primepower : 128cpu 他
 - 企業内のWebシステム化によるミッドレンジサーバー
 - Sun Fire V880 , hp server rp7400
 - Compaq Alpha Server GS80 他



市場ニーズに適合した戦略的な価格改定

Oracle9i プライス 競合製品との比較(4CPUサーバーでの価格)

単位: 万円

2,000

1,500

1,000

500

0

9iDB EE
ユーザー最小構成
(80ユーザー)

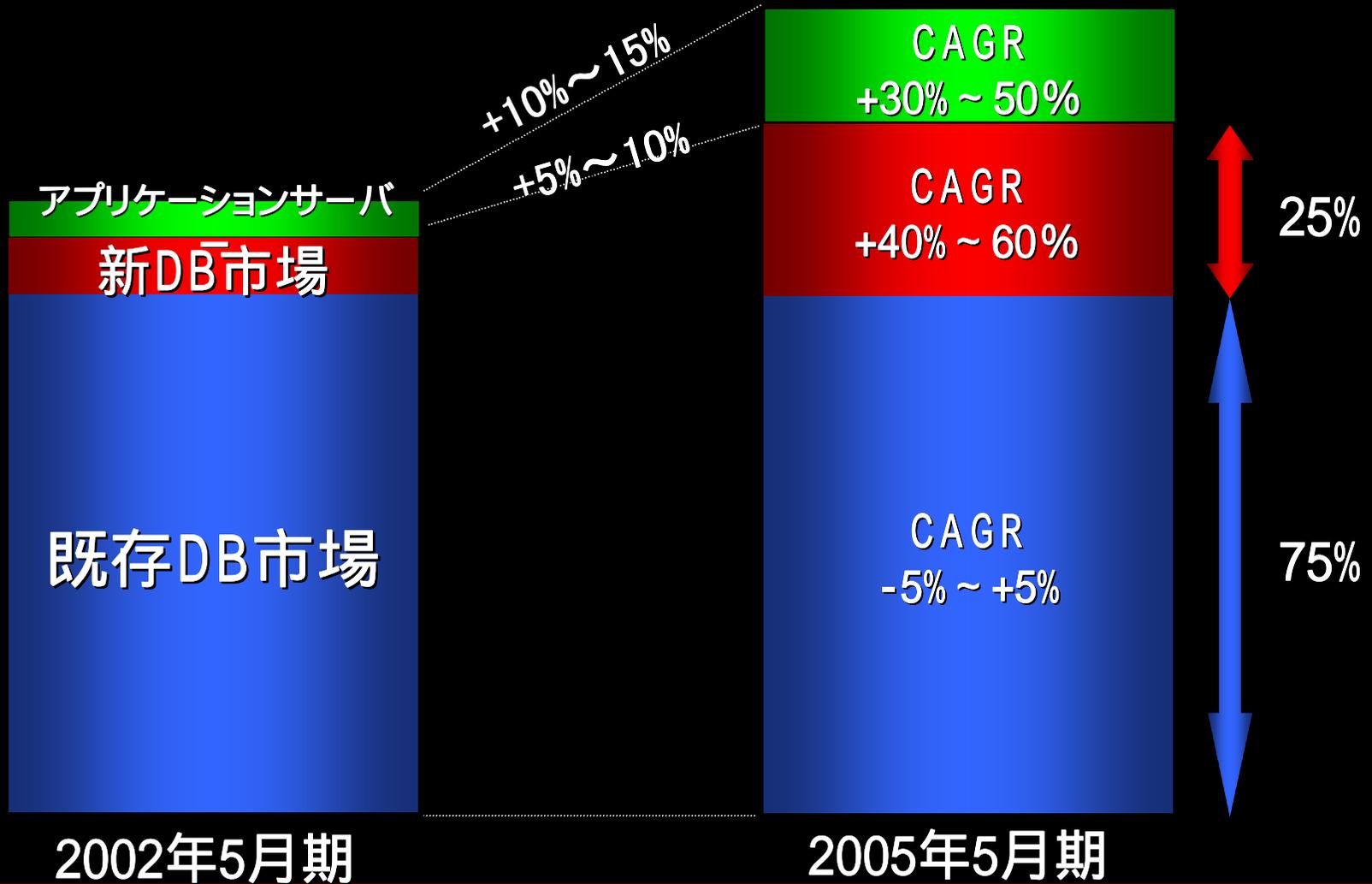
9iDB EE
(280ユーザー)

IBM UDB EE
(プロセッサー)

9iDB EE
(プロセッサー)

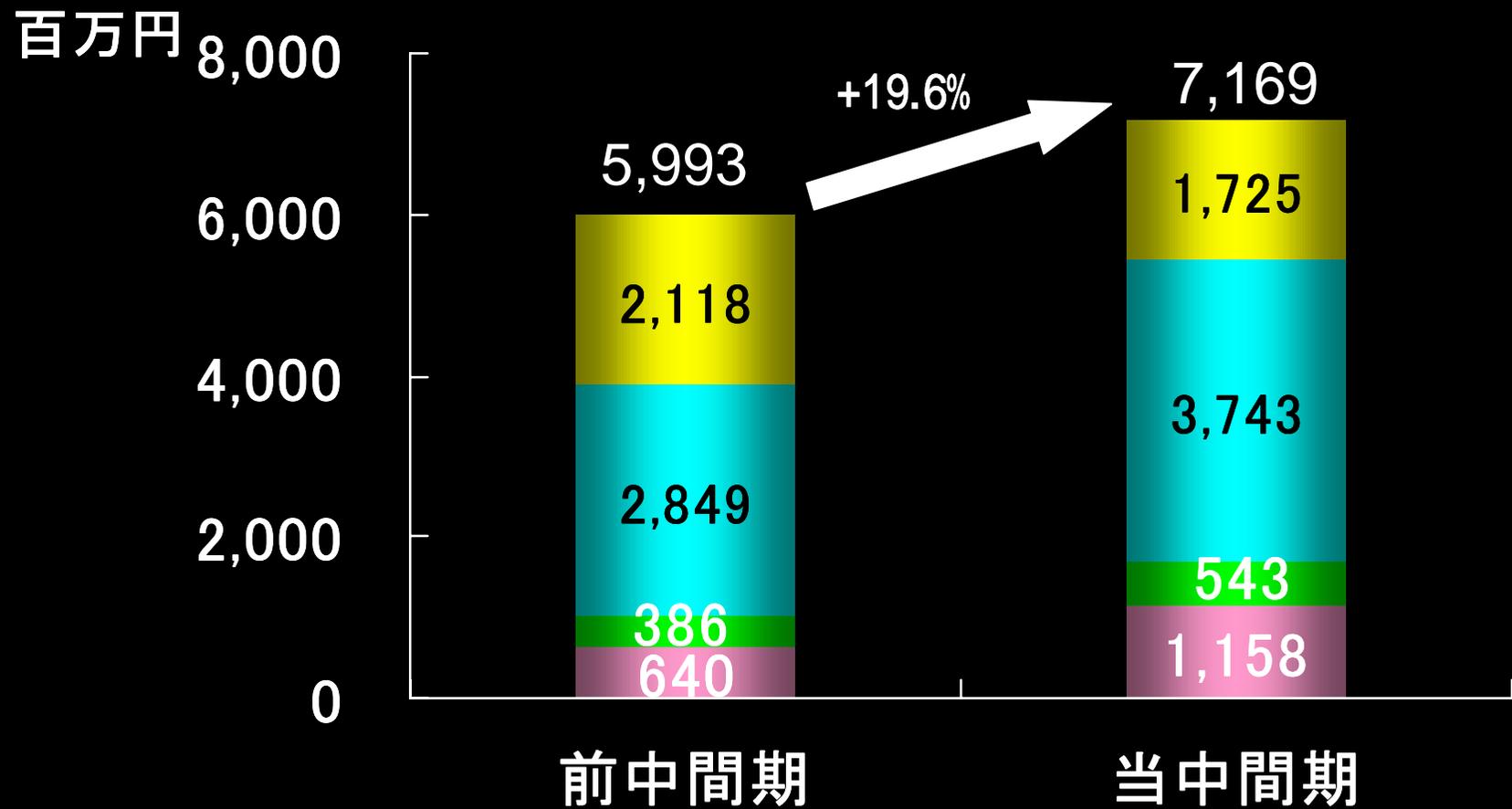
ORACLE

サーバー・テクノロジー需要見込み



ソリューションビジネス

ソリューションビジネス(中間期)



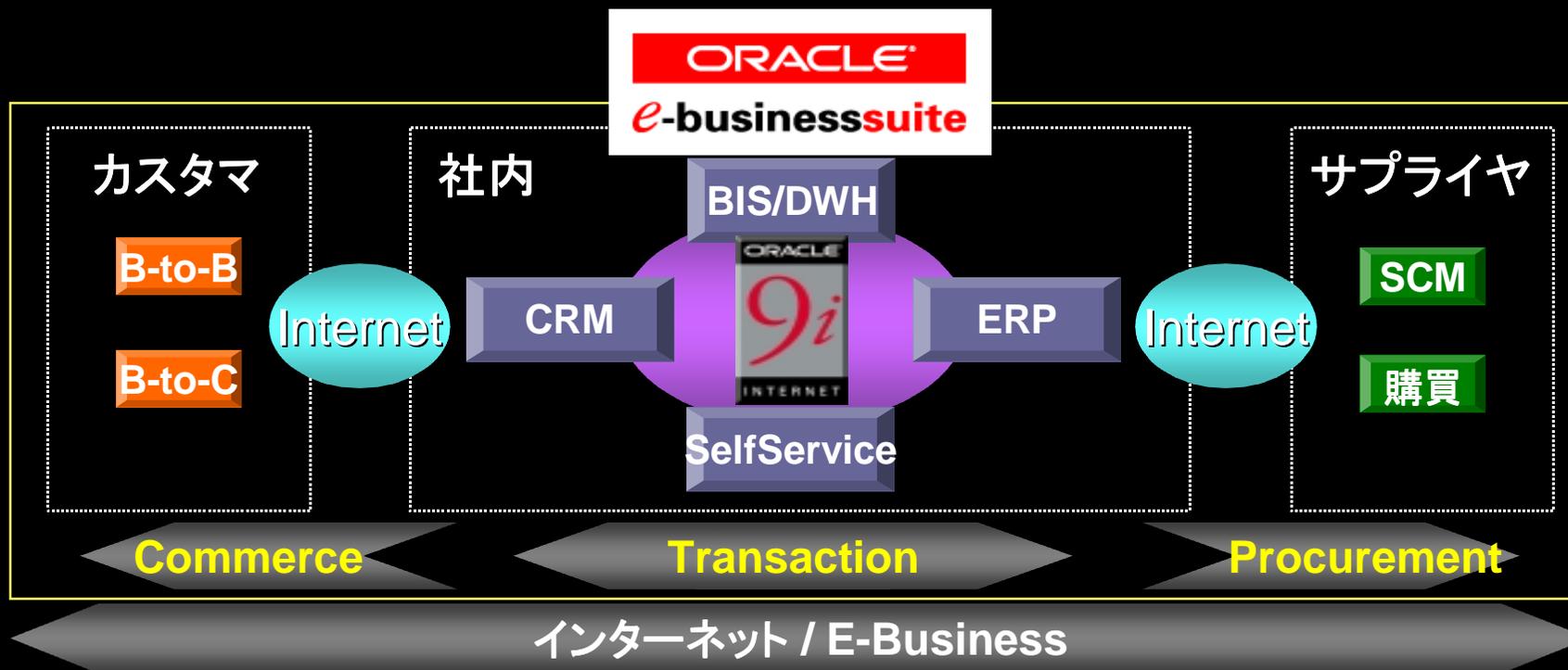
- サポートサービス
- エデュケーションサービス
- コンサルティングサービス
- ライセンス

ソリューションビジネス 実績

～ 今期の重点戦略における実績 ～

ポイントソリューションから統合ソリューションへ

プラットフォーム製品とEBS製品を融合させたEビジネス統合プロジェクト



ソリューションビジネスの実績

当中間期新規稼動サイト

A行	新人事システム フェーズ2
B行	北米地域総勘定元帳(GL)システム 新為替システム
C社	新会計システム
D社	新会計システム
E社	海外ABCシステム
F社	ITシステム
G社	新生販システム
H社	システム技術支援
I社	コールセンターシステム
J社	関連会社経営管理システム
K社	販物システム
	他 計21案件

大手不動産会社

事業運営体制の改革・連結経営体制の強化をEBSで実現

グループ会社一体の事業本部制導入を中心とした機構改革を実施すべくEBSで基幹業務を刷新。ビル・住宅開発・設計監理の各事業本部でキャッシュフローと資産効率を重視した経営を目指す。

現状の課題、新システム要件

- グループ会社一体の事業本部制の導入
- キャッシュフロー・資産効率重視型経営の実現
- 分散された既存システム間のデータ連携
- 管理業務削減とサービス関連業務効率化
- 顧客情報収集・蓄積とその有効活用

E-Business Suite 選定のポイント

- 基幹業務の全てをカバーしかつ他システムとの連携も含めたデータ統合が可能
- 強力な分析機能により蓄積されたデータの戦略的活用が可能
- 段階的導入による早期立ち上げが可能

導入効果・狙い

- ルーチンワーク削減・効率化により高付加価値業務へとシフトし、労働生産性を大幅に向上
- 事業本部別決算業務の早期化により予実検証・事業進捗をタイムリーに把握
- 会計データの一元化により、制度会計・管理会計を統合し、決算業務を大幅に効率化するとともに高度な経営分析を可能とする

2001年10月 フェーズ1稼働

新ソリューションエリア

SCM

SCP

i-Procurement

今期受注2件、累計5件。

今期受注6件、累計25件。

CRM

Oracle CRM

今期受注5件、累計12件。

ソリューションビジネスのアライアンス展開

～ 今期の重点戦略における実績 ～

新たなるアライアンス戦略の展開

NSO Initiative

SCMエリアにFocusして高い実績。

イー・ビー・ソリューションズ

東芝グループでの展開からスタートし規模を拡大、
外販へも展開を開始。

横河電機/ YDC

横河電機：プロセス業界向けソリューションの共同
開発、共同プロモーションを開始。

YDC：今年度100名体制へ向け、要員拡充、育成。

ORACLE

(敬称略)

ソリューションビジネス 今後の展開

インダストリー戦略の更なる推進

- ・金融ソリューションの拡大
- ・電子政府の本格展開
- ・プロセス業界向けソリューション展開
- ・NSOによる自動車部品ソリューションフレームワークの展開

統合ソリューションの一層の展開

- ・9iと11iによるUnified Information Architecture
- ・プロジェクト実績のShowcase化とそれによる展開

アライアンス戦略の強化・推進

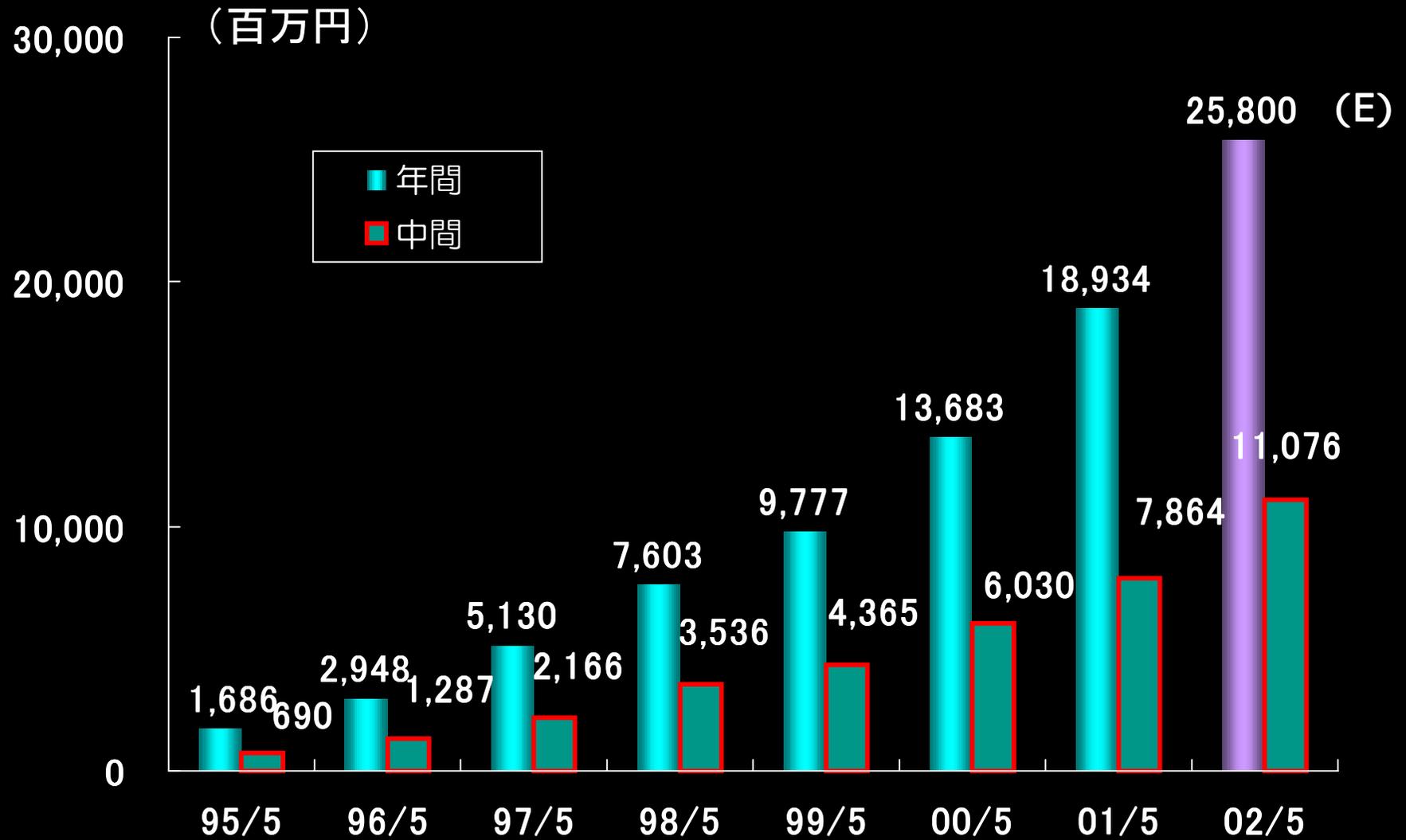
- ・CRM、SCM、OPMを中心とした新たなパートナー戦略の展開

戦略的開発投資の推進

- ・日本のビジネスモデルに即応するSolution Packの開発推進

サポートサービス

サポートサービス



サポートサービス

< 期初目標とその進捗状況 >

付加価値の向上

プレミアム・サポートの強化、拡大

- ・プレミアム・サポート売上の増大（対前年56%増）

効率の向上

iサポートの推進

- ・ナレッジサービスのコンテンツ強化と活用促進

ナレッジ・ベース(KROWN) コンテンツ蓄積18,099件

- ・契約更新作業効率化のためのCRMシステム稼働

< その他の実績 >

顧客満足度調査を実施・分析

お客様、パートナーの立場に立ったサービスを徹底

サポートサービス

< 今後の展開 >

上半期実績の維持・強化

- ・プレミアム・サポートの強化のため組織を強化
- ・iサポート推進の継続

CRM サービスモジュール導入プロジェクトの推進

Online DBA

- ・E - ビジネス導入拡大に対応し新たなサービスの投入
- ・オラクル製品の管理・監視を代行
- ・24H常時サポートでのテスト提供開始(下期5社を予定)

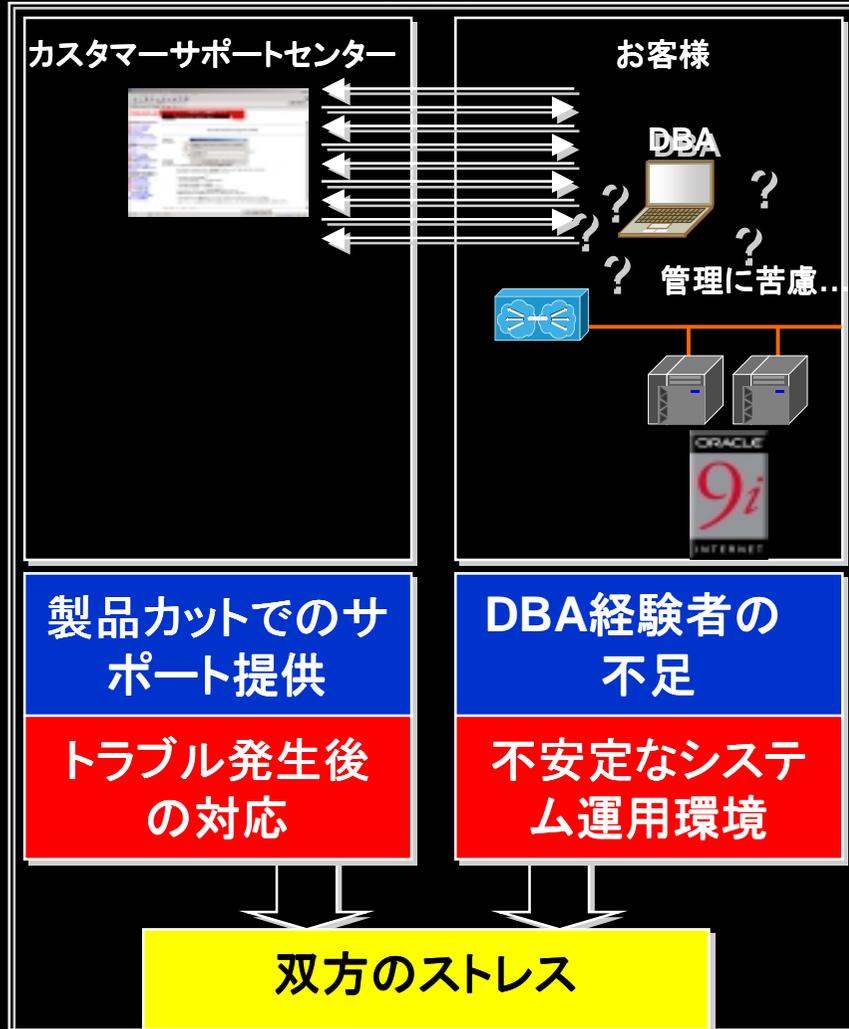
その他

サポートビジネスの維持・拡大の為のパートナー企業との協業強化

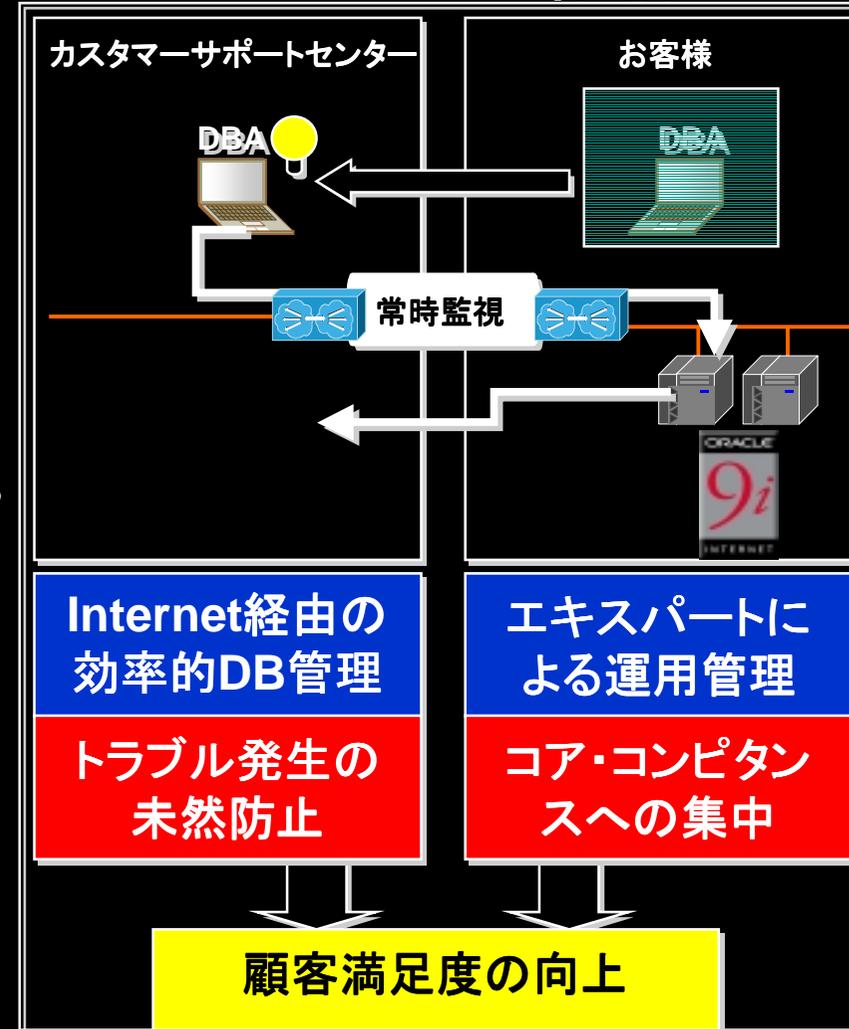
- ・Joint Support Centerの人員増強

On-Line DBA

現状

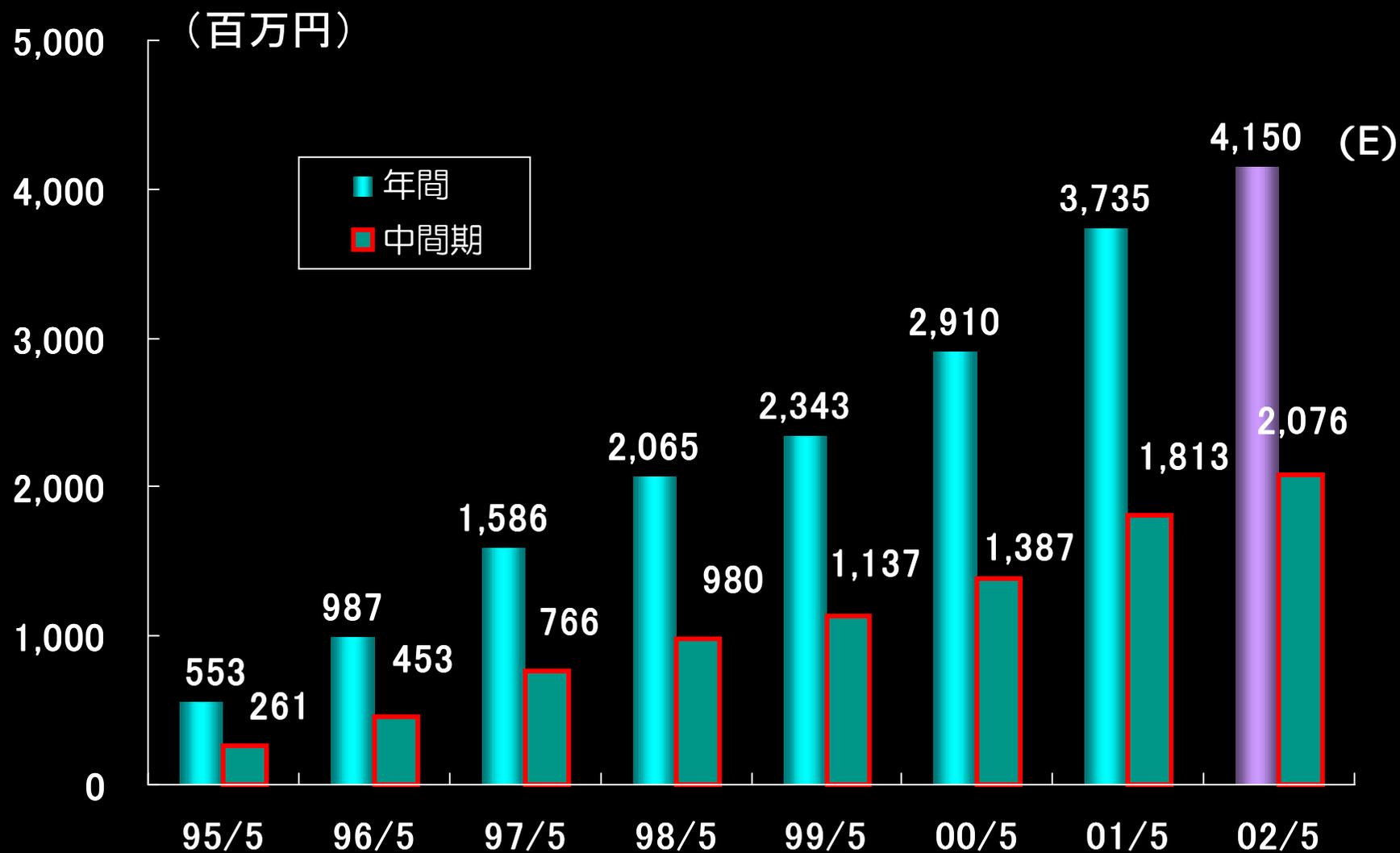


On-Line DBA導入後



エデュケーションサービス

エデュケーションサービス



エデュケーションサービス

< 期初目標とその進捗状況 >

E ラーニングの強化

- ・ Net ClassをOLNと改称すると共に大幅な機能拡張を実現

既に12社で採用

1万3千名(個人ユーザー含む)がOLNを利用

認定技術者の育成

- ・ Oracle Master取得者は5万名を突破(10月末)

オラクルマスター関連売上の増大(前年比50%増)

- ・ EBS Certified Consultantも期初の2千名から2千8百名を突破

(期初目標来年5月末で3千名)

- ・ 定期研修コースは、EBSカリキュラムが好調(前年比34%増)

エデュケーションサービス

< 今後の展開 >

上半期実績の維持・強化

OLNの更なる販売強化・機能拡充

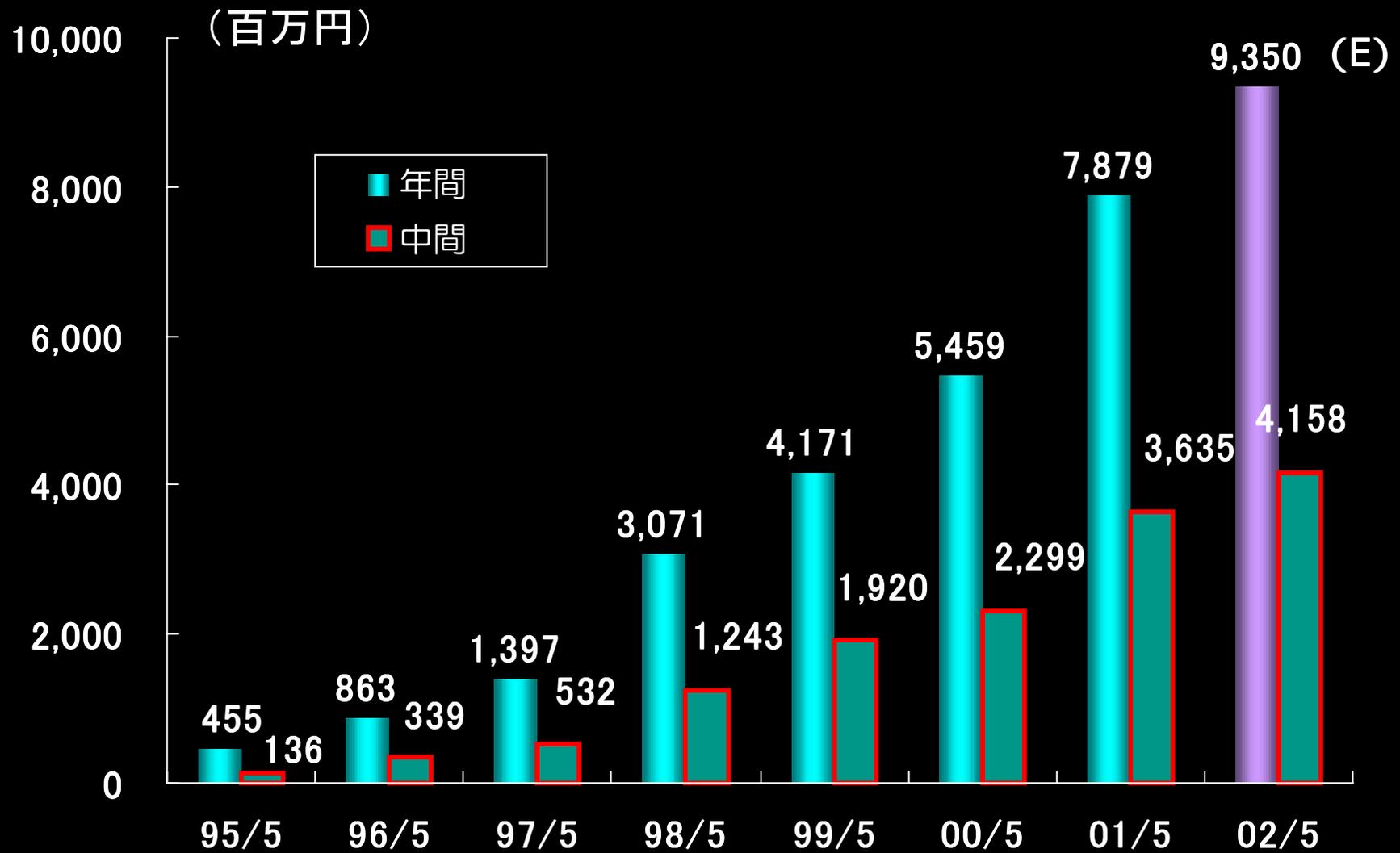
- ・オラクルマスター取得推進企業にOLNの導入推進
- ・OLNの再販業者の獲得
- ・OLNにメンタリングサービスを提供(2001/12~)
- ・Oracle9i用コンテンツの提供(2002/2~)

Oracle9i新カリキュラムの本格リリース

- ・Oracle9i関連12タイトルを提供(~2002/2)

コンサルティングサービス

コンサルティングサービス



コンサルティングサービス

< 期初目標とその進捗状況 >

ソリューションコンサルティングの強化

- ・ビジネス・アプリケーション系サービス売上比率の増加
(前中間期78% 90%)

パートナーコンサルタントの育成と協業

- ・パートナー企業から コンサルタントをインターンとして受入
- ・新日鉄ソリューションズ 横河電機/YDC、イー・ビー・ソリューションズをはじめとし、幅広くパートナー企業と協業

ソリューション標準化によるサービス品質向上

- ・ナレッジベース活用による生産性の向上
- ・ソリューションパック(Oracle SP)化の推進

コンサルティングサービス

< 今後の展開 >

上半期実績の維持・強化

日本向けソリューション環境の整備

リファレンスプロジェクトへの集中

インダストリーソリューションの推進

その他

H/A(High Availability)コンサルティングの強化

- ・ORACLE 9iをベースとしたサーバーテクノロジーコンサルティングを強力に推進する

4. 通期業績予想

下期トレンド

(単位: 百万円)

	当初予想	当期		前年比
売上高	(60,762)	50,457		5.0%
経常利益	(25,080)	18,460		0.3%
経常利益率	(41.3%)	36.6%		1.7p
ソフトウェアプロダクト	(37,960)	28,469		7.7%
サービスビジネス	(22,802)	21,989		27.6%
ソリューションビジネス	(通期のみ)	11,137		32.3%

ORACLE

(注)ソリューションビジネスの下期の当初予想は出しておりません。

2002年5月期下期業績予想(売上内訳)

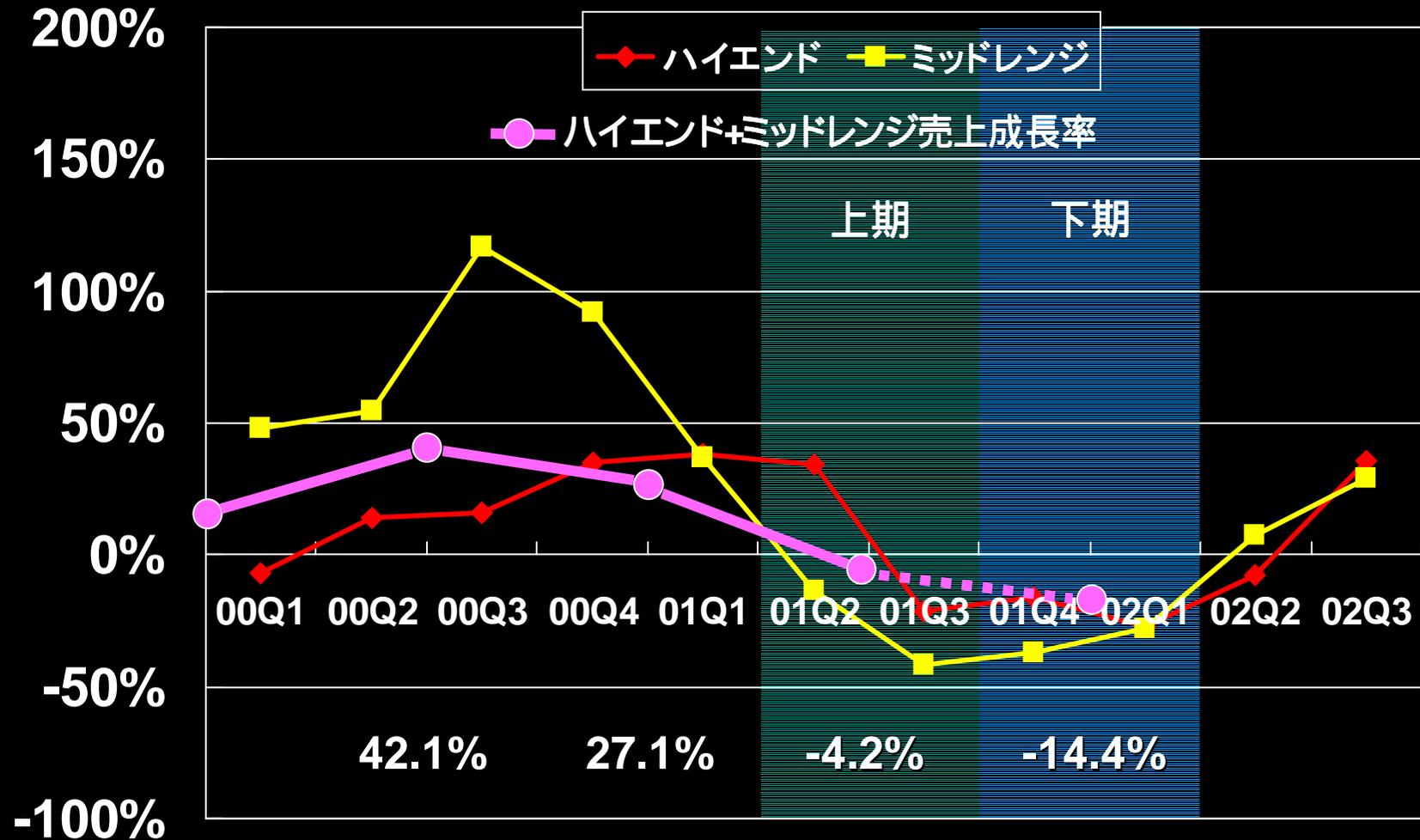
(百万円)

	前下期	当下期 当初予想	当下期 修正予想	前年比
サーバー・テクノロジー等	27,643	32,810	24,487	11.4%
ビジネス・アプリケーション	3,197	5,150	3,983	+ 24.6%
ソフトウェアプロダクト外計	30,839	37,960	28,469	7.7%

(注) サーバー・テクノロジー等はソフトウェアツールを含む

ORACLE

ミッド、及びハイエンドUnix Server 出荷台数成長率と売上成長率見込み

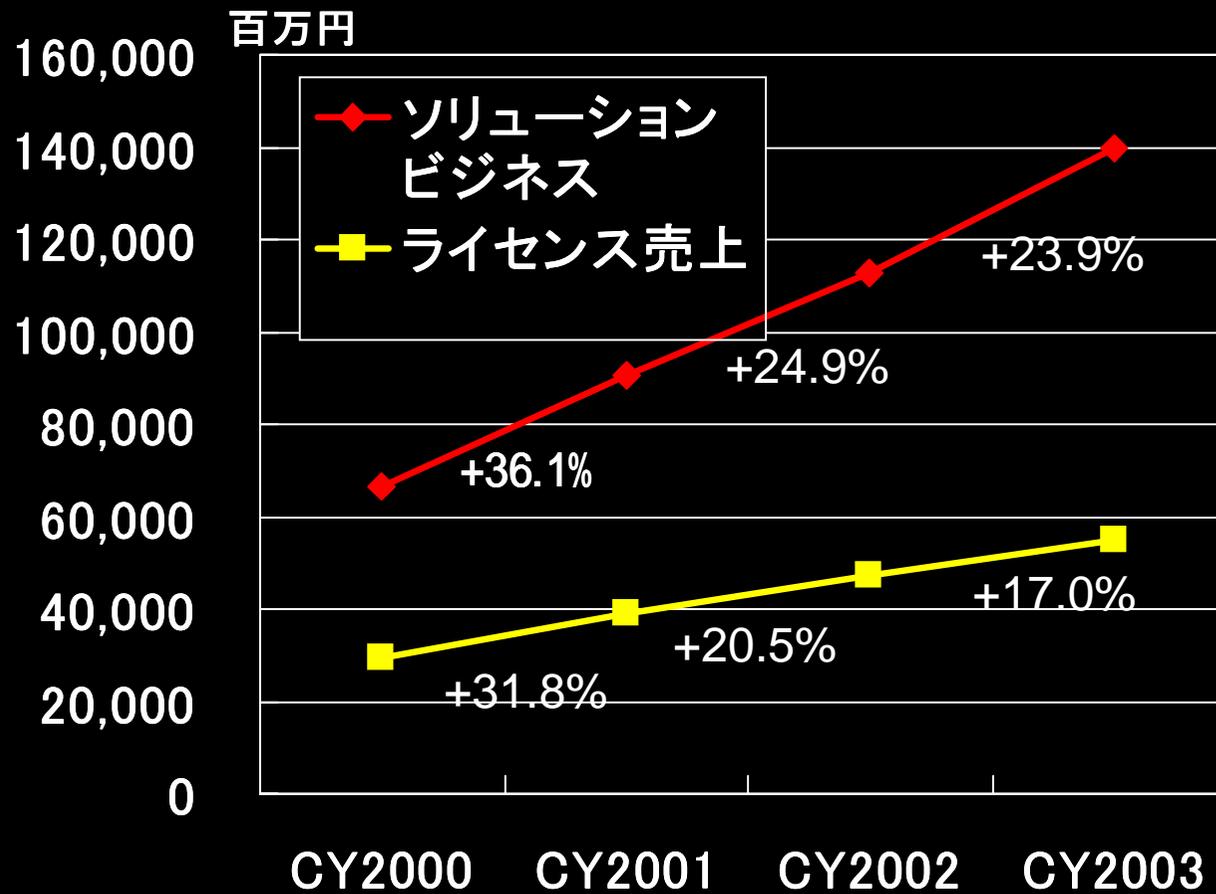


Gartner予測データ等を基にオラクル推定

ORACLE

出荷台数実績/予測、及び売上実績
出典：Gartner Dataquest(Dec. 2001)

ビジネス・アプリケーション 下期以降見通し



出典：富士キメラ総研
(2001年11月25日)

通期トレンド

(単位: 百万円)

	当初予想	当期		前年比
売上高	(108,000)	94,300		7.5%
経常利益	(41,566)	35,020		9.0%
経常利益率	(38.5%)	37.1%		0.5p
ソフトウェアプログラム外	(68,512)	55,000		3.8%
サービスビジネス	(39,488)	39,300		28.6%
ソリューションビジネス	(20,330)	18,306		27.0%

2002年5月期通期業績予想

(百万円)

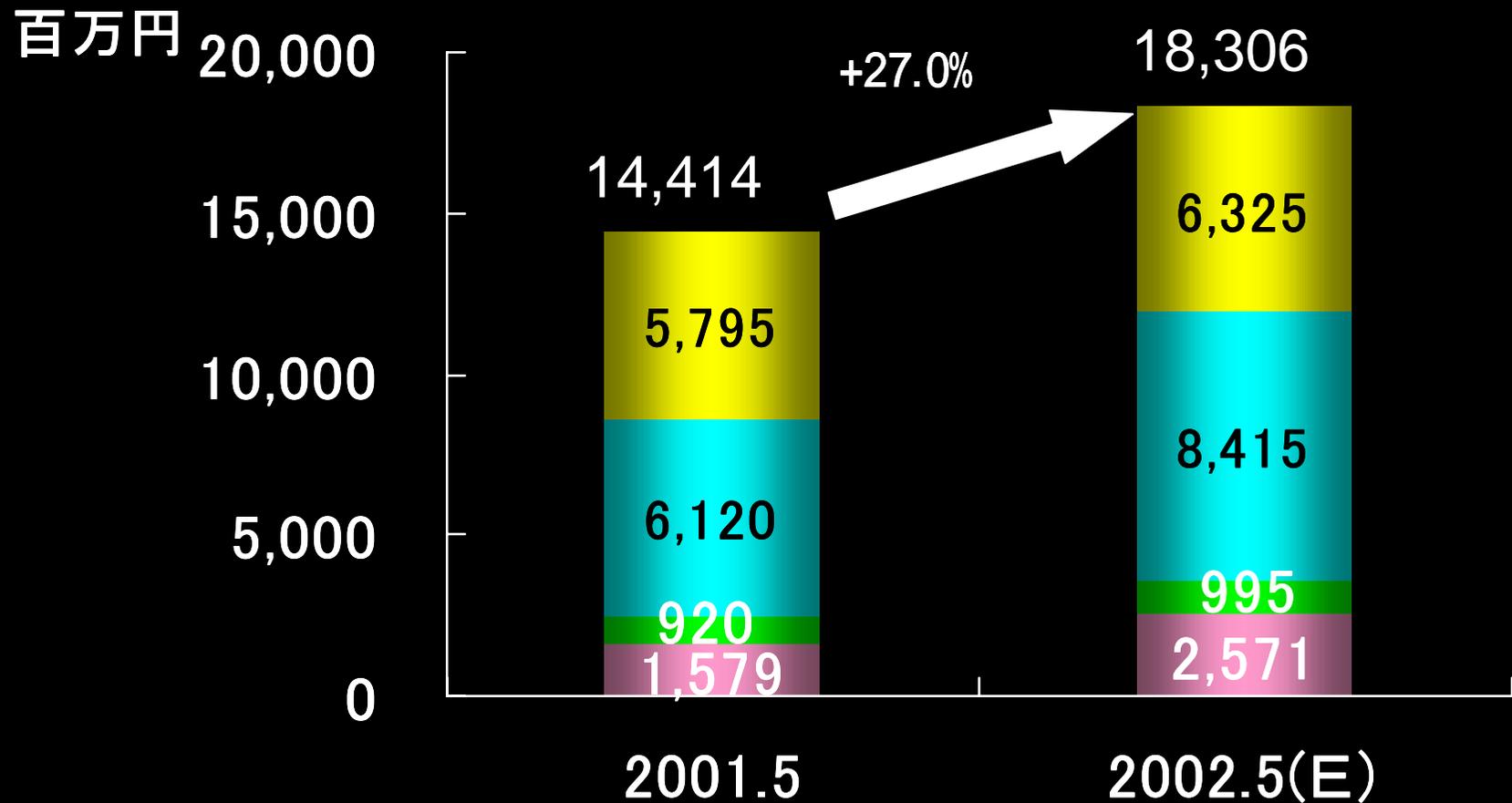
	2001/5	2002/5 当初予想	2002/5 修正予想	前年比
売上高	87,731	108,000	94,300	+ 7.5%
営業利益	31,883	41,462	34,918	+ 9.5%
営業利益率	36.3%	38.4%	37.0%	
經常利益	32,124	41,566	35,020	+ 9.0%
經常利益率	36.6%	38.5%	37.1%	
純利益	18,325	23,893	20,020	+ 9.2%
当期利益率	20.9%	22.1%	21.2%	

2002年5月期通期業績予想(売上内訳) (百万円)

	2001 / 5	2002 / 5 当初予想	2002 / 5 修正予想	前年比
サーバー・テクノロジー等	52,142	60,962	49,500	5.1%
ビジネス・アプリケーション	5,038	7,550	5,500	+ 9.2%
ソフトウェアプロダクト計	57,181	68,512	55,000	3.8%
サポートサービス	18,934	25,712	25,800	+ 36.3%
エデュケーションサービス	3,735	4,560	4,150	+ 11.1%
コンサルティングサービス	7,879	9,216	9,350	+ 18.7%
サービス計	30,549	39,488	39,300	+ 28.6%
売上高合計	87,731	108,000	94,300	+ 7.5%

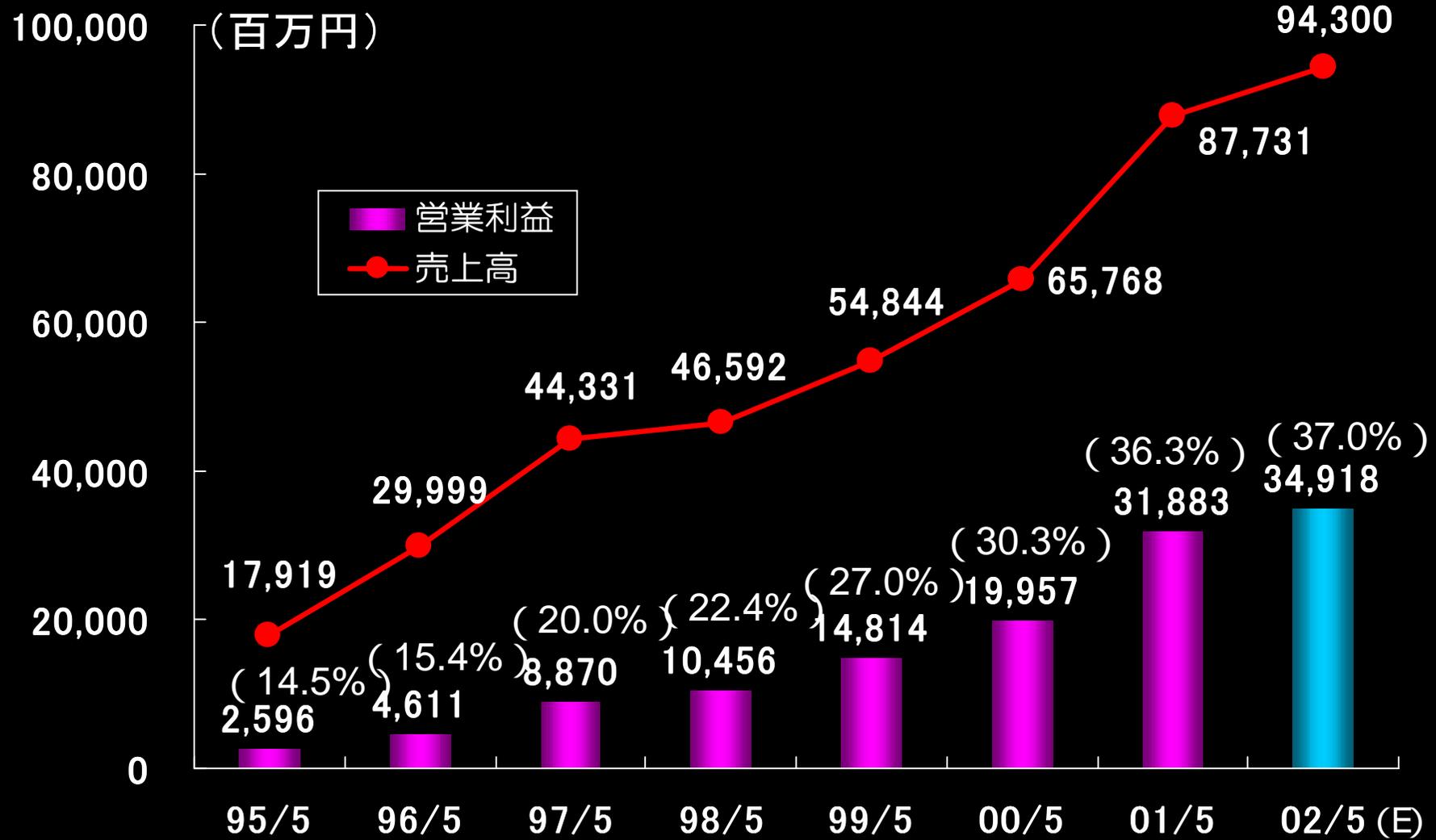
(注) サーバー・テクノロジー等はソフトウェアツールを含む

ソリューションビジネス(通期予想)



- サポートサービス
- エデュケーションサービス
- コンサルティングサービス
- ライセンス

売上高 営業利益の推移



ORACLE

(注) 括弧内は営業利益率

ORACLE®

D E M O N S T R A T I O N

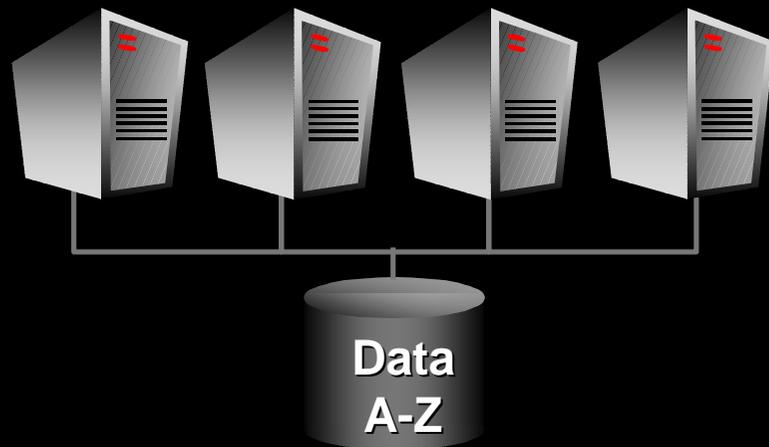
Oracle9i

ORACLE

データベースクラスタの種類

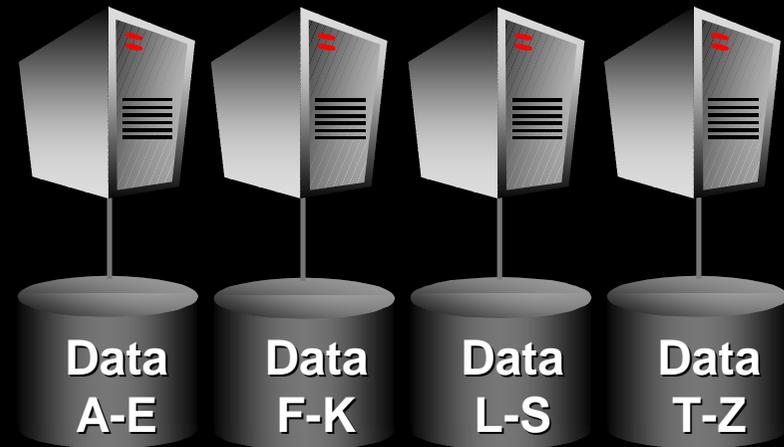
- シェアード・ディスク

- Oracle と IBM 汎用機
- サーバー追加による信頼性の向上
- データ分割が不必要
- すべてのアプリケーションが稼動

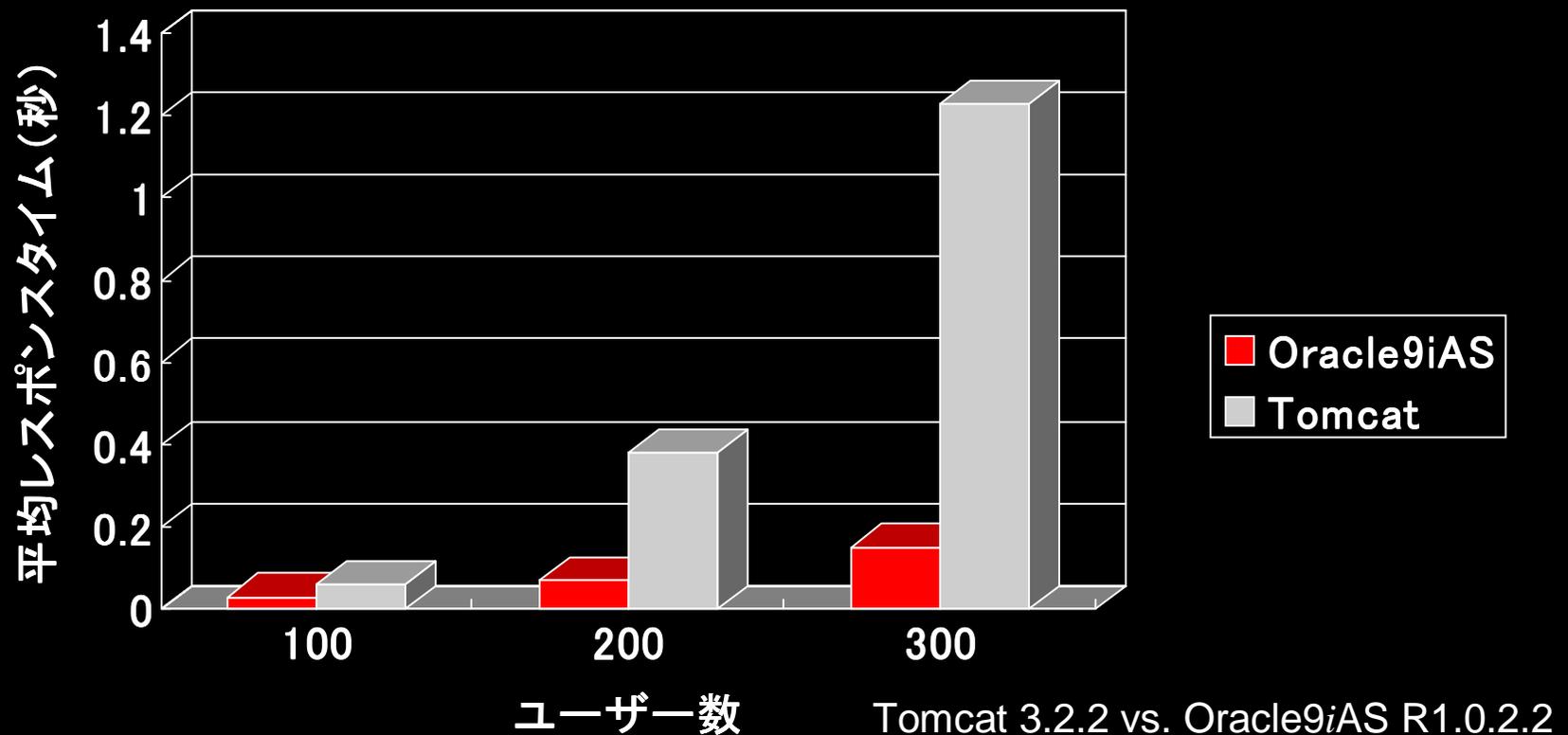


- シェアード・ナッシング

- Microsoft と IBM Unix/NT
- サーバー追加による信頼性の減少
- データ分割が必要
- アプリケーションの変更が必要

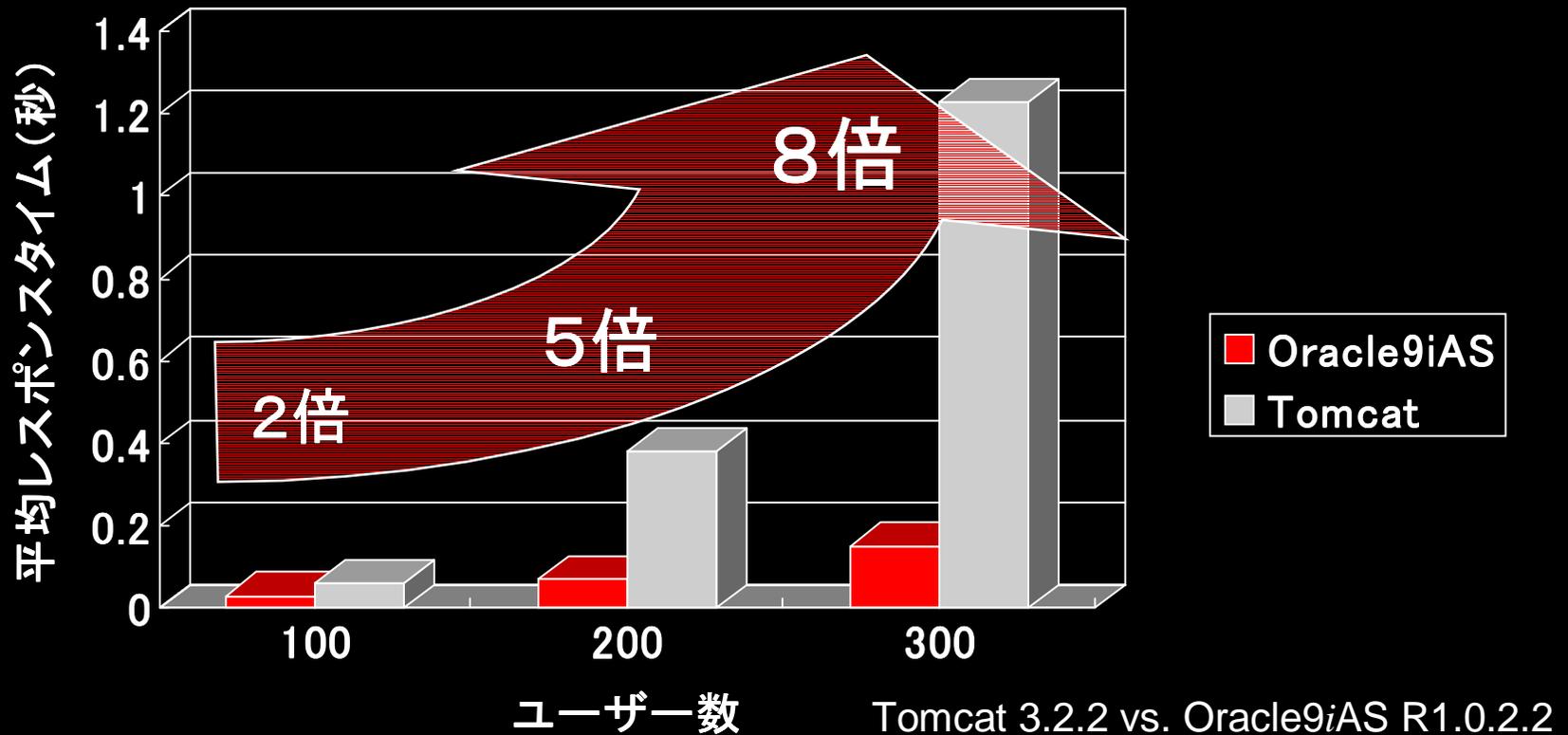


Javaアプリケーションの圧倒的なパフォーマンス 高速なレスポンスタイム



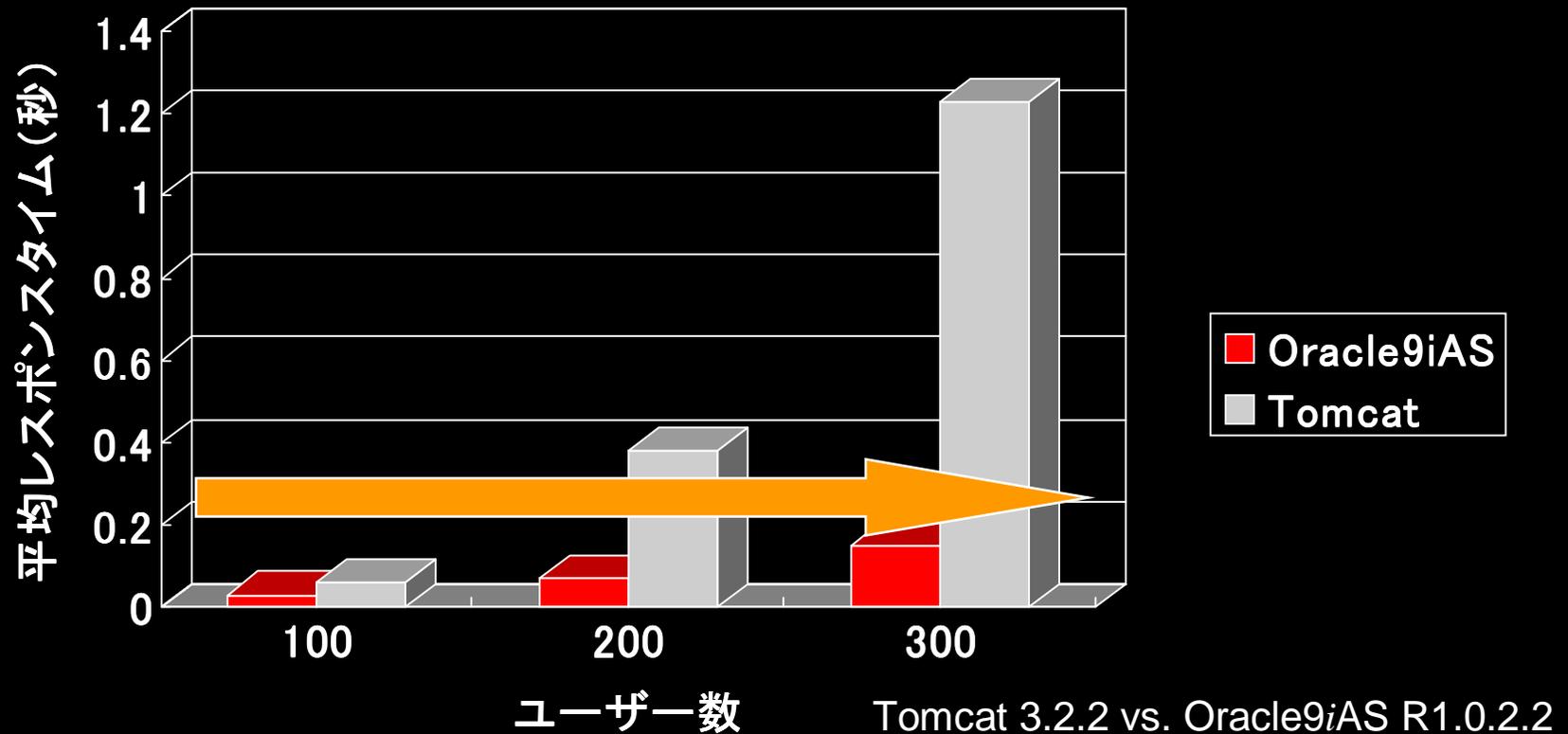
ORACLE

Javaアプリケーションの圧倒的なパフォーマンス 高速なレスポンスタイム



ORACLE

Javaアプリケーションの圧倒的なパフォーマンス 高速なレスポンスタイム



ORACLE

ORACLE®